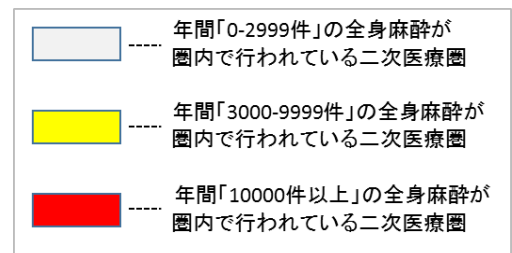
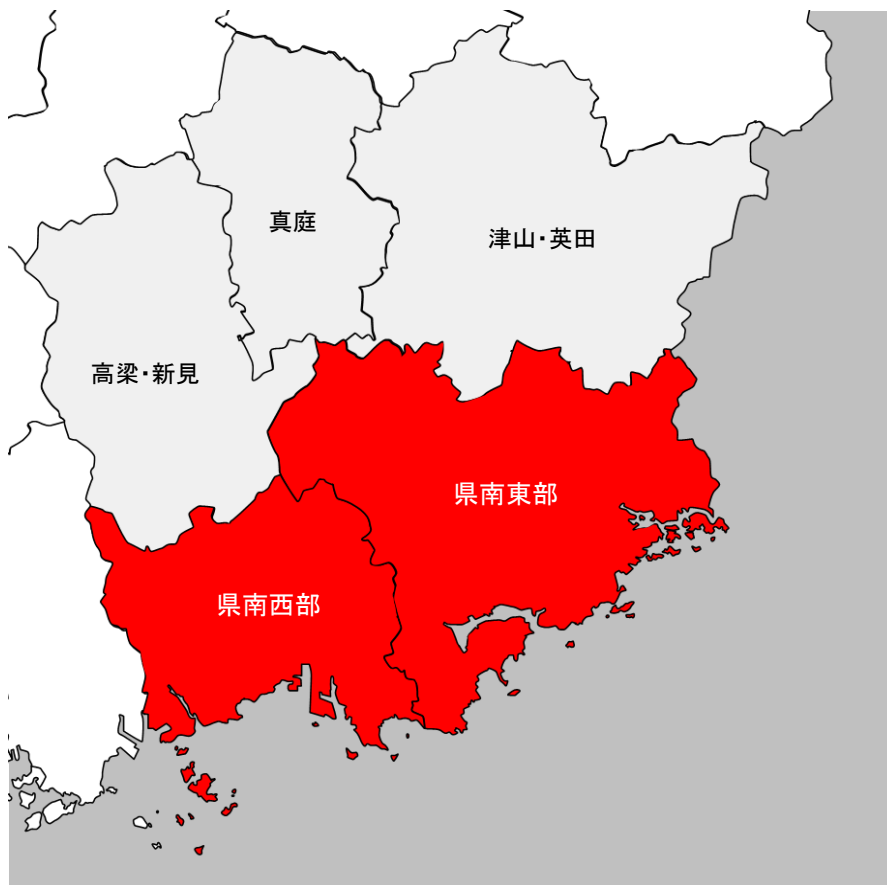


# 33. 岡山県

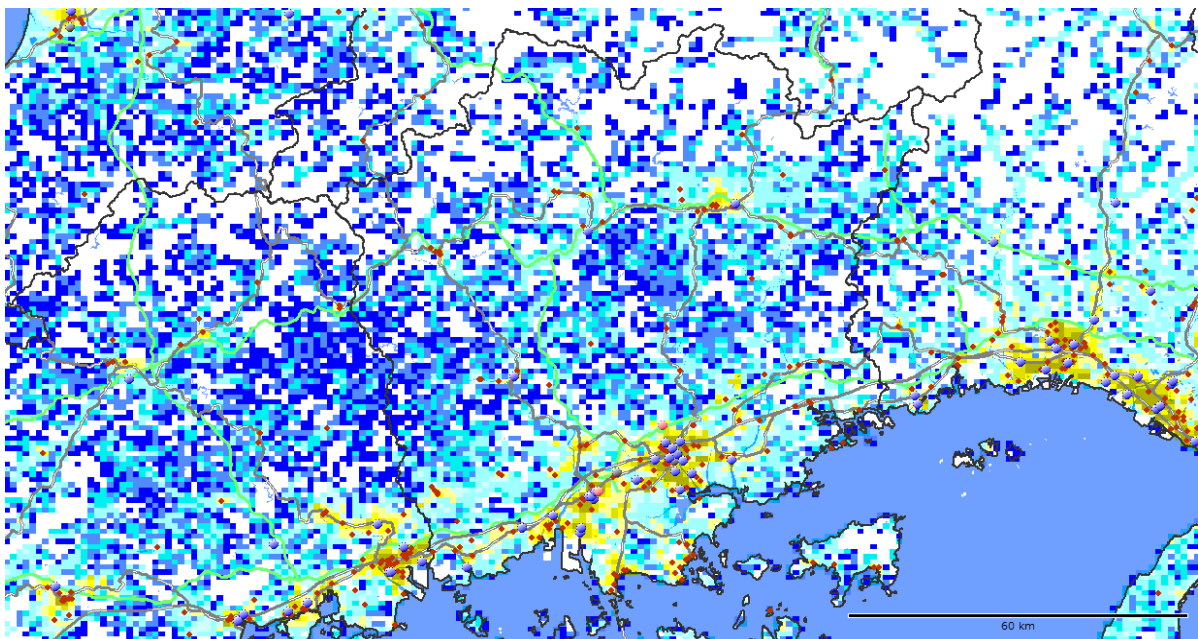


目次

岡山県	33	-	3
資料編 一 当県ならびに二次医療圏別資料	33	-	8
1. 県南東部医療圏	33	-	20
2. 県南西部医療圏	33	-	25
3. 高梁・新見医療圏	33	-	30
4. 真庭医療圏	33	-	35
5. 津山・英田医療圏	33	-	40

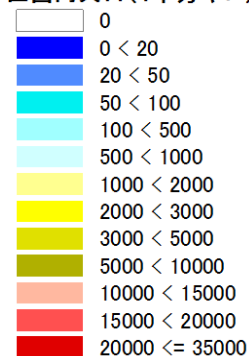
# 33. 岡山県

人口分布 (1km<sup>2</sup>区画単位)



1km<sup>2</sup>区画 (1km<sup>2</sup>メッシュ) で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く (10,000人/km<sup>2</sup>以上)、黄色系統は中間レベル (1,000~10,000人/km<sup>2</sup>)、青色系統は人口が少ない (1,000人/km<sup>2</sup>未満)。白色は非居住地。  
出所：国勢調査 (平成22年、総務省) 地図情報GIS  
Market Analyzer ver. 3.7 地図 PAREAシリーズ

区画内人口 (1平方キロ)



DPC病院



## (岡山県) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

## 【地域の概要】

\*人口、面積など： 岡山県は、総人口約1,922千人(2015年)、面積7,107km<sup>2</sup>、人口密度は270人/km<sup>2</sup>である。

\*人口の将来予測： 岡山県の総人口は2025年に1,846千人へと減少し(2015年比-4%)、2040年に1,681千人へと減少する(2025年比-9%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の274千人が、2025年にかけて352千人へと増加し(2015年比+28%)、2040年には342千人へと減少する(2025年比-3%)ことが予想される。

\*医療費と介護給付費： 岡山県の一人当たり医療費(国保)は402千円(偏差値63)、介護給付費は279千円(偏差値58)であり、医療費、介護給付費ともに高い。

## 【医療の現状】

\*入院医療の充実度： 岡山県の一人当たり急性期医療密度指数は1.28、一人当たり慢性期医療密度指数は1で、急性期の医療は充実しているが、慢性期の医療は全国平均レベルである。

\*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が57(病院医師数57、診療所医師数54)と、総医師数、病院医師数ともに多い。総看護師数の偏差値は56と多い。

\*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は60で、一般病床は多い。全身麻酔数の偏差値は46とやや少ない。

\*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は49と療養病床数は全国平均レベルである。

\*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値54とやや多く、回復期病床数は偏差値51と全国平均レベルである。

\*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は51で精神病床数は全国平均レベルである。

\*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は53で診療所数はやや多い。

## 【介護施設や在宅ケアの現状】

\*介護施設の現状： 岡山県の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、30,962人(75歳以上1,000人当たりの偏差値55)と全国平均レベルをやや上回る。そのうち、介護保険施設の定員が18,078床(偏差値54)、高齢者住宅等が12,884床(偏差値53)である。介護保険施設、高齢者住宅等ともに全国平均レベルをやや上回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、25,787人(75歳以上1,000人当たりの偏差値64)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを上回る。

施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設53、特別養護老人ホーム54、介護療養型医療施設46、有料老人ホーム49、軽費ホーム60、グループホーム61、サ高住47である。

\*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値56と多く、在宅療養支援病院は偏差値58と多い。また、訪問看護ステーションは偏差値45とやや少ない。介護職員(在宅)の合計は、2,480人(75歳以上1,000人当たりの偏差値42)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

\*介護の2025年の需要予測： 2025年の介護充足度指数は-1%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、現在の高齢者施設・住宅数でほぼ対応可能である。

## 2. 推移

### 【人口と医療需要】

岡山県の総人口は、2005年1,957,264人が、2015年に1,921,525人と2%減少し、2025年の人口が1,846,230人と予測され、2005年→2025年の間に6%程度の減少が予測されている。

医療の需要（医療費ベース）は、2005年から2015年に10%増加し、2015年から2025年にかけて4%程度の増加が予測される。

### 【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

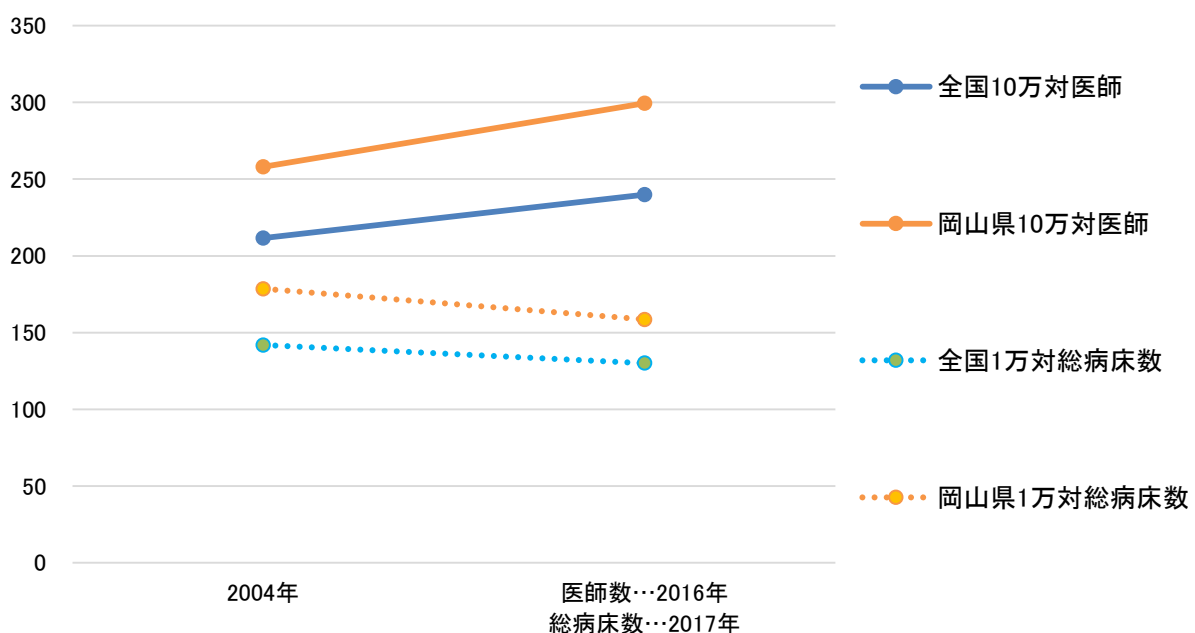
2004年の病院数が185(人口10万人当たり9.5病院(全国平均7.1)偏差値56)であったが、2017年に163(人口10万人当たり8.5病院(全国平均6.6)偏差値54)となり、13年間で22病院が減少した。

2004年の診療所数が1,624(人口10万人当たり83診療所(全国平均76)偏差値53)であったが、2017年に1,648(人口10万人当たり86診療所(全国平均80)偏差値53)と、24診療所が増加した。

2004年の総病床数が34,944床(人口1万人当たり179(全国平均142)偏差値57)であったが、2017年に30,460床(人口1万人当たり159(全国平均130)偏差値55)と、4,484床の減少、率にして13%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。

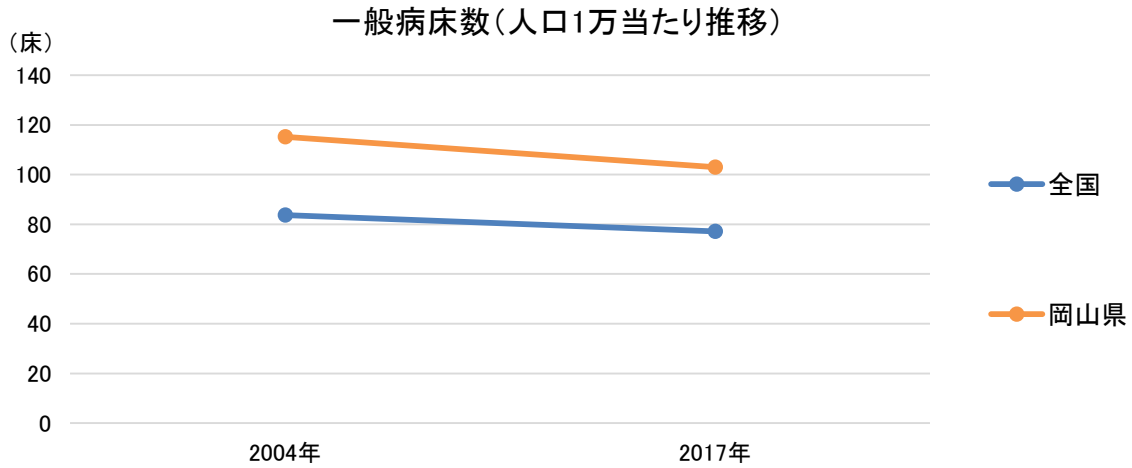
2004年には病院と診療所合わせての総医師数が5,051人(人口10万人当たり258人(全国平均212人)偏差値56)であったが、2016年に5,752人(人口10万人当たり299人(全国平均240人)偏差値57)と、701人の増加、率にして14%の増加(全国平均13%の増加)が見られた。

人口当たり医師数・総病床数の推移



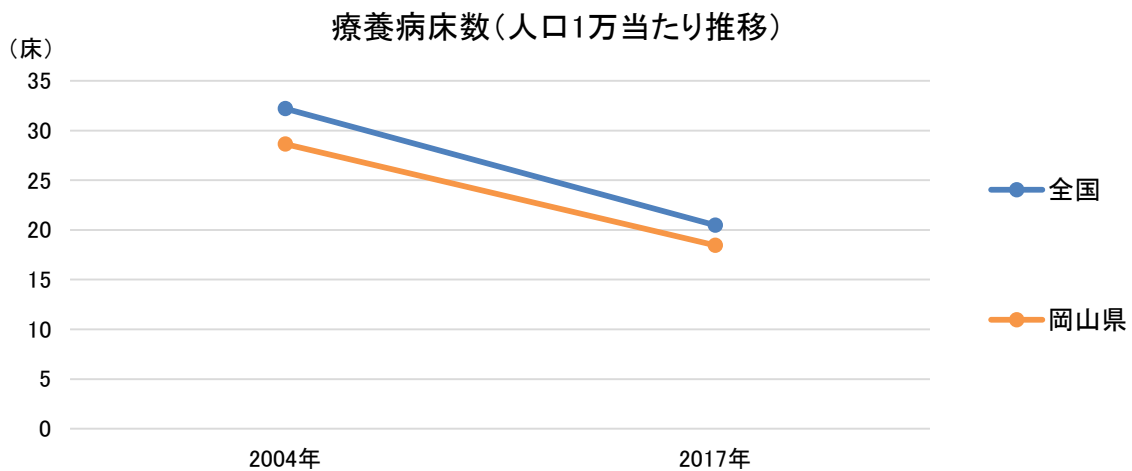
【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が22,540床(人口1万人当たり115(全国平均84)偏差値61)であったが、2017年に19,787床(人口1万人当たり103(全国平均77)偏差値60)と、2,753床の減少、率にして12%の減少(全国平均8%の減少)が見られた。



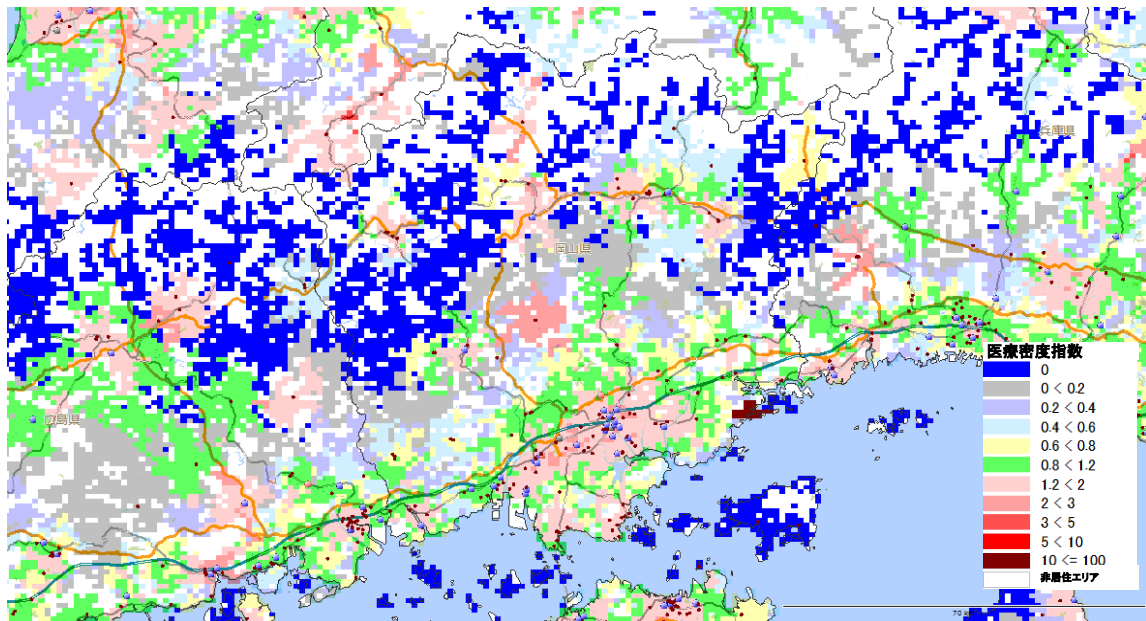
【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が6,112床(75歳以上1,000人当たり29(全国平均32)偏差値48)であったが、2017年に5,066床(75歳以上1,000人当たり18(全国平均20)偏差値48)と、1046床の減少、率にして17%の減少(全国平均11%の減少)が見られた。



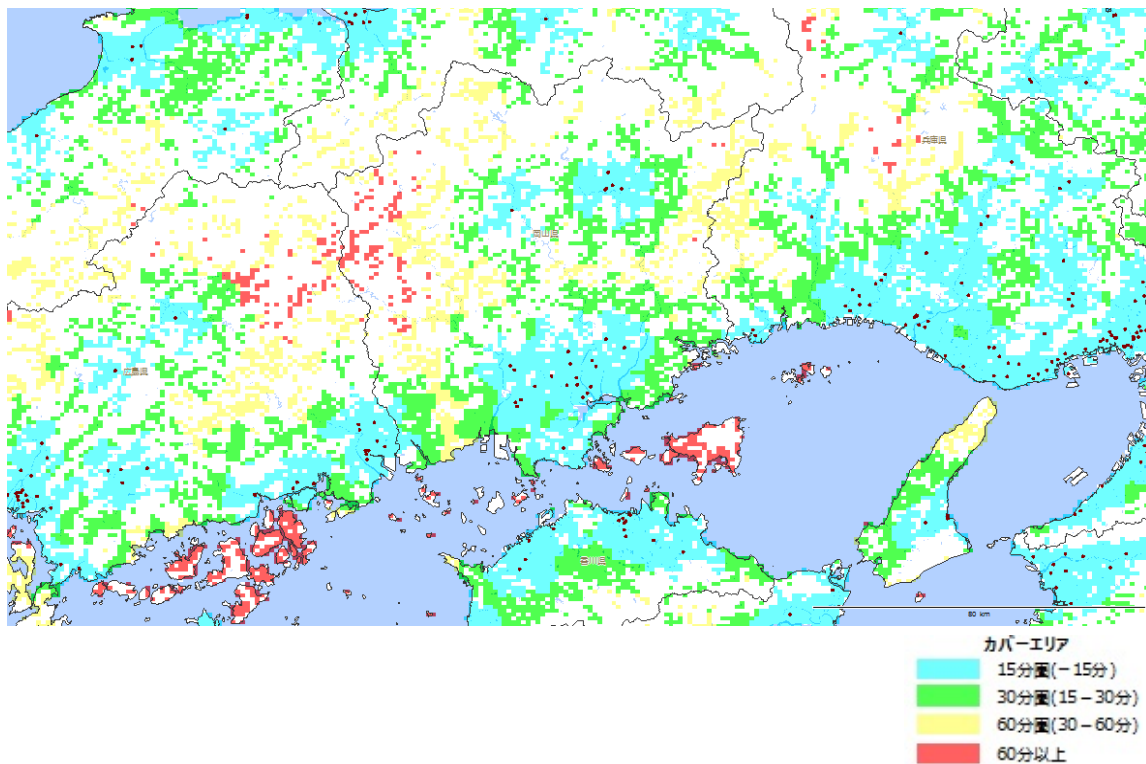
## (岡山県) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表33-1 急性期医療密度指数マップ



図表33-2 分娩医療機関への所用運転時間(カバーエリア)

※全国1km<sup>2</sup>メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関(病院と有床診療所)への運転時間を計算し、1km<sup>2</sup>メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの(「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照(日医総研WP no. 400) )



資料編 ー 当県ならびに二次医療圏別資料

資\_図表 33-1 地理情報・人口動態

二次医療圏	人口 (単位: 千人)	県内 シェア	面積	県内 シェア	人口 密度	地域タイプ	高齢 化率	2025年 総人口 (単位: 千人)	2040年 総人口 (単位: 千人)	2015年 75歳以上 人口 (単位: 千人)	2025年 75歳以上 人口 (単位: 千人)	2040年 75歳以上 人口 (単位: 千人)	2015→ 25年 総人口 増減率	2025→ 40年 総人口 増減率	2015→ 25年 75歳以上 人口 増減率	2025→ 40年 75歳以上 人口 増減率
全国	127,095		372,950		340.8		27%	122,544	110,919	16,322	21,800	22,392	-4%	-9%	34%	3%
岡山県	1,922	20位	7,107	17位	270.4		29%	1,846	1,681	274	352	342	-4%	-9%	28%	-3%
県南東部	922	48%	1,900	27%	485.4	地方都市型	27%	905	846	120	161	161	-2%	-7%	34%	0%
県南西部	707	37%	1,124	16%	629.2	地方都市型	29%	684	627	97	132	127	-3%	-8%	36%	-4%
高梁・新見	63	3%	1,340	19%	46.8	過疎地域型	39%	51	37	15	14	12	-19%	-27%	-7%	-14%
真庭	47	2%	896	13%	52.5	過疎地域型	37%	41	33	10	10	10	-13%	-20%	0%	0%
津山・英田	182	9%	1,848	26%	98.7	過疎地域型	32%	164	139	32	34	32	-10%	-15%	6%	-6%
出典	<人口(2015年)>平成27年国勢調査 人口等基本集計 平成27年10月 <人口(2025年、2040年)>日本の地域別将来推計人口 国立社会保障・人口問題研究所 平成30年3月 <面積>平成27年国勢調査 人口等基本集計 平成27年10月															

資\_図表 33-2 一人当たり医療密度指数、介護充足度指数

二次医療圏	一人当たり 急性期医療 密度指数	一人当たり 慢性期医療 密度指数	75歳以上介護充足度		
			2016年 ベッド数	2025年目標 ベッド数	2025年充足度 指数 (%)
全国	1.00	1.00	1,485,377	1,772,098	-19.3%
岡山県	1.28	1.00	27,788	28,150	-1.3%
県南東部	1.51	1.14	12,261	12,771	-4.2%
県南西部	1.17	2.03	9,702	10,546	-8.7%
高梁・新見	0.64	1.62	1,352	1,150	14.9%
真庭	0.97	1.55	984	843	14.3%
津山・英田	0.89	1.40	3,489	2,840	18.6%
出典	<一人当たり急性期医療密度指数><一人当たり慢性期医療密度指数>その地域の住民が、どの程度の医療(急性期及び慢性期)を利用できるかの目安を示す指標。1.0が全国平均。0.8を下回ると少ない、0.6を下回ると非常に少ない、1.2以上充実、1.5以上非常に充実。(「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2016年度版)序章【参考資料】参照(日医総研WP no.375) ) <75歳以上介護充足度指数>高齢者住宅・施設の各地域の受入れ充足度を示す指標。2025年の75歳以上推定人口から算出した高齢者住宅・施設の目標ベッド数が2016年ベッド数と比べて何%多いか少ないかを示す。集計対象は、介護三施設、軽費老人ホーム、グループホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者賃貸住宅等である。				



資\_図表 33-3 国保の医療費・地域差指数、全体の介護給付費

二次医療圏	一人あたり 医療費 (国保のみ) (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数	入院費 (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数	入院外+ 調剤 (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数	被保険者 一人あたり 介護給付費 (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	347	(43)	1.000	133	(30)	1.000	188	(17)	1.000	252	(35)
岡山県	402	63	1.107	164	60	1.177	210	63	1.062	279	58
県南東部	401	63	1.125	163	60	1.192	209	62	1.077	279	58
県南西部	395	61	1.074	158	58	1.115	210	62	1.046	265	54
高梁・新見	462	77	1.179	214	77	1.415	223	70	1.044	311	67
真庭	397	62	1.043	171	63	1.166	201	57	0.972	292	61
津山・英田	416	66	1.116	172	63	1.198	217	67	1.071	309	66
出典	<一人あたり医療費>平成28年度医療費の地域差分析 厚生労働省 <一人あたり介護給付費>平成29年度介護保険事業状況報告(年報) 平成29年度累計(平成29年3月サービス分から平成30年2月サービス分まで) ※介護給付費の二次医療圏値の算定には、福岡県と沖縄県の一部市町村が二次医療圏をまたぐ広域連合を構成しているため、構成市町村の75歳以上人口による按分を用いた。また、複数の二次医療圏をもつ横浜市および川崎市は同じデータを記載。										

資\_図表 33-4 後期高齢者の医療費・地域差指数

二次医療圏	一人あたり 後期高齢者 医療費 (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数	入院費 (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数	入院外+ 調剤 (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数
全国	919	(120)	1.000	458	(98)	1.000	427	(39)	1.000
岡山県	959	53	1.046	499	54	1.081	425	50	1.010
県南東部	984	55	1.081	505	55	1.102	442	54	1.054
県南西部	945	52	1.036	496	54	1.084	415	47	0.986
高梁・新見	917	50	0.985	509	55	1.058	381	38	0.914
真庭	860	45	0.914	458	50	0.948	380	38	0.895
津山・英田	956	53	1.019	497	54	1.033	431	51	1.015
出典	<一人あたり医療費>平成28年度医療費の地域差分析 厚生労働省								

資\_図表 33-5 病院数、診療所数

二次医療圏	病院数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	診療所数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	8,412		6.6	(4.6)	101,471		80	(18.9)
岡山県	163	1.9%	8.5	54	1,648	1.6%	86	53
県南東部	77	47%	8.4	54	866	53%	94	57
県南西部	53	33%	7.5	52	509	31%	72	46
高梁・新見	8	5%	12.8	63	65	4%	104	63
真庭	7	4%	14.9	68	44	3%	94	57
津山・英田	18	11%	9.9	57	164	10%	90	55
出典	平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月			

資\_図表 33-6 診療所数(全体、無床、有床)

二次医療圏	診療所数(再掲)				無床診療所数				有床診療所数			
	診療所数(再掲)	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	無床診療所数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	有床診療所数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	101,471		80	(18.9)	94,269		74	(18.7)	7,202		5.7	(6.0)
岡山県	1,648	1.6%	86	53	1,495	1.6%	78	52	153	2.1%	8.0	54
県南東部	866	53%	94	57	791	53%	86	56	75	49%	8.1	54
県南西部	509	31%	72	46	460	31%	65	45	49	32%	6.9	52
高梁・新見	65	4%	104	63	60	4%	96	61	5	3%	8.0	54
真庭	44	3%	94	57	40	3%	85	56	4	3%	8.5	55
津山・英田	164	10%	90	55	144	10%	79	53	20	13%	11.0	59
出典	平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月			

資\_図表 33-7 病院総病床数、診療所病床数

二次医療圏	病院総病床数				診療所病床数				病院+診療所病床数			
	病院総病床数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	診療所病床数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	病院+診療所病床数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	1,554,879		1,223	(48.1)	98,355		77	(94)	1,653,234		1,301	(53.7)
岡山県	28,226	1.8%	1,469	55	2,234	2.3%	116	54	30,460	1.8%	1,585	55
県南東部	14,391	51%	1,561	57	1,060	47%	115	54	15,451	51%	1,676	57
県南西部	9,630	34%	1,361	53	741	33%	105	53	10,371	34%	1,466	53
高梁・新見	988	4%	1,575	57	63	3%	100	52	1,051	3%	1,675	57
真庭	767	3%	1,632	58	75	3%	160	59	842	3%	1,792	59
津山・英田	2,450	9%	1,343	52	295	13%	162	59	2,745	9%	1,505	54
出典	平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				病院総病床数と診療所病床数の合計			

資\_図表 33-8 病院病床数(一般病床、療養病床、精神病床)

二次医療圏	一般病床数				療養病床数				精神病床数			
	一般病床数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	療養病床数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	精神病床数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	890,865		701	(223)	325,228		256	(203)	331,700		261	(210)
岡山県	17,933	2.0%	933	60	4,686	1.4%	244	49	5,445	1.6%	283	51
県南東部	9,453	53%	1,025	65	1,722	37%	187	47	3,127	57%	339	54
県南西部	6,531	36%	923	60	1,701	36%	240	49	1,363	25%	193	47
高梁・新見	399	2%	636	47	349	7%	556	65	240	4%	383	56
真庭	425	2%	904	59	172	4%	366	55	170	3%	362	55
津山・英田	1,125	6%	617	46	742	16%	407	57	545	10%	299	52
出典	平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月			

資\_図表 33-9 回復期リハビリ病棟病床数と地域包括ケア病棟病床数

二次医療圏	回復期 病床数				地域包括 ケア 病床数			
	回復期 病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	地域包括 ケア 病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	80,806		64	(46)	73,895		58	(63)
岡山県	1,306	1.6%	68	51	2,032	2.7%	106	58
県南東部	605	46%	66	50	890	44%	97	56
県南西部	602	46%	85	55	732	36%	103	57
高梁・新見	0	0%	0	36	115	6%	183	70
真庭	0	0%	0	36	121	6%	258	82
津山・英田	99	8%	54	48	174	9%	95	56
出典	平成29年度病床機能報告 平成29年7月				平成30年5月地方厚生局			

資\_図表 33-10 公的病院病床数、民間病院病床数

二次医療圏	公的病院			民間病院			一般病床		療養病床	
	総病床数	一般 病床数	療養 病床数	総病床数	一般 病床数	療養 病床数	公的病院 病床数 の比率	偏差値 *全国は 標準偏差	公的病院 病床数 の比率	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	445,096	396,156	16,674	1,098,305	495,042	301,360	44.5%	(27%)	5.2%	(22%)
岡山県	7,085	6,290	469	20,964	11,792	3,922	34.8%	46	10.7%	52
県南東部	5,627	5,188	138	8,702	4,315	1,473	54.6%	54	8.6%	51
県南西部	1,089	910	154	8,540	5,720	1,447	13.7%	38	9.6%	52
高梁・新見	96	54	42	892	345	307	13.5%	38	12.0%	53
真庭	105	50	55	662	375	117	11.8%	38	32.0%	62
津山・英田	168	88	80	2,168	1,037	578	7.8%	36	12.2%	53
出典	地方厚生局指定一覧平成30年12月公表データをもとに株式会社ウェルネスが集計 公的病院の分類は、「新公立病院改革プラン」と「公的医療機関等2025プラン」の策定対象医療機関および開設者が国の医療機関とし、それ以外は民間病院とした。									

資\_図表 33-11 全身麻酔件数、分娩件数(年間)

二次医療圏	全身麻酔 件数				分娩件数			
	全身麻酔 件数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	分娩件数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	3,945,312		3,104	(2,557)	923,436		727	(264)
岡山県	38,820	1.0%	2,020	46	15,336	1.7%	798	53
県南東部	23,784	61%	2,580	48	8,328	54%	903	57
県南西部	12,528	32%	1,771	45	5,160	34%	729	50
高梁・新見	0	0%	0	38	60	0%	96	26
真庭	216	1%	460	40	192	1%	409	38
津山・英田	2,292	6%	1,256	43	1,596	10%	875	56
出典	平成29年度病床機能報告 ※平成29年6月の月間件数×12				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月 ※平成29年9月の月間件数×12			

資\_図表 33-12 医師数(総数、病院医師数、診療所医師数)

二次医療圏	総医師数				病院医師数				診療所医師数			
	総医師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	病院医師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	診療所医師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	304,759		240	(90)	202,302		159	(72)	102,457		81	(23)
岡山県	5,752	1.9%	299	57	4,017	2.0%	209	57	1,735	1.7%	90	54
県南東部	3,245	56%	352	63	2,270	57%	246	62	975	56%	106	61
県南西部	1,984	34%	280	55	1,452	36%	205	56	532	31%	75	48
高梁・新見	86	1%	137	39	48	1%	77	39	38	2%	61	41
真庭	78	1%	166	42	44	1%	94	41	34	2%	72	46
津山・英田	359	6%	197	45	203	5%	111	43	156	9%	86	52
出典	病院医師数と診療所医師数の合計				平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月				平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月			

資\_図表 33-13 専門医数(総合内科、小児科、産婦人科)

二次医療圏	総合内科専門医数				小児科専門医数				産婦人科専門医数			
	総合内科専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	小児科専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	産婦人科専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	22,522		17.7	(9.2)	13,551		10.7	(4.8)	11,242		8.8	(4.0)
岡山県	466	2.1%	24.3	57	245	1.8%	12.8	54	178	1.6%	9.3	51
県南東部	262	56%	28.4	62	143	58%	15.5	60	108	61%	11.7	57
県南西部	180	39%	25.4	58	84	34%	11.9	53	55	31%	7.8	47
高梁・新見	3	1%	4.8	36	4	2%	6.4	41	4	2%	6.4	44
真庭	5	1%	10.6	42	1	0%	2.1	32	2	1%	4.3	39
津山・英田	16	3%	8.8	40	13	5%	7.1	43	9	5%	4.9	40
出典	平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月											

資\_図表 33-14 専門医数(皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科)

二次医療圏	皮膚科専門医数				眼科専門医数				耳鼻咽喉科専門医数			
	皮膚科専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	眼科専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	耳鼻咽喉科専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	5,609		4.4	(2.2)	9,812		7.7	(3.3)	7,687		6.0	(2.6)
岡山県	90	1.6%	4.7	51	166	1.7%	8.6	53	138	1.8%	7.2	54
県南東部	59	66%	6.4	59	97	58%	10.5	59	76	55%	8.2	58
県南西部	23	26%	3.3	45	61	37%	8.6	53	49	36%	6.9	53
高梁・新見	2	2%	3.2	44	3	2%	4.8	41	3	2%	4.8	45
真庭	0	0%	0	30	1	1%	2.1	33	3	2%	6.4	51
津山・英田	6	7%	3.3	45	4	2%	2.2	33	7	5%	3.8	42
出典	平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月											

資\_図表 33-15 専門医数(精神科、外科、整形外科)

二次医療圏	精神科				外科				整形外科			
	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	9,177		7.2	(3.4)	21,168		16.7	(7.1)	16,463		13.0	(4.6)
岡山県	208	2.3%	10.8	60	397	1.9%	20.7	56	284	1.7%	14.8	54
県南東部	136	65%	14.8	72	231	58%	25.1	62	166	58%	18.0	61
県南西部	50	24%	7.1	50	136	34%	19.2	54	93	33%	13.1	50
高梁・新見	6	3%	9.6	57	6	2%	9.6	40	7	2%	11.2	46
真庭	2	1%	4.3	41	5	1%	10.6	42	5	2%	10.6	45
津山・英田	14	7%	7.7	51	19	5%	10.4	41	13	5%	7.1	37
出典	平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月											

資\_図表 33-16 専門医数(泌尿器科、脳神経外科、放射線科)

二次医療圏	泌尿器科				脳神経外科				放射線科			
	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	6,003		4.7	(2.1)	6,763		5.3	(2.4)	5,687		4.5	(3.0)
岡山県	88	1.5%	4.6	49	113	1.7%	5.9	52	122	2.1%	6.3	56
県南東部	49	56%	5.3	53	63	56%	6.8	56	70	57%	7.6	60
県南西部	34	39%	4.8	50	38	34%	5.4	50	46	38%	6.5	57
高梁・新見	0	0%	0	28	3	3%	4.8	48	1	1%	1.6	41
真庭	1	1%	2.1	38	4	4%	8.5	63	0	0%	0	35
津山・英田	4	5%	2.2	38	5	4%	2.7	39	5	4%	2.7	44
出典	平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月											

資\_図表 33-17 専門医数(麻酔科、病理、救急科)

二次医療圏	麻酔科				病理				救急科			
	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	7,107		5.6	(3.3)	1,603		1.3	(1.0)	3,795		3.0	(1.9)
岡山県	135	1.9%	7.0	54	31	1.9%	1.6	54	69	1.8%	3.6	53
県南東部	97	72%	10.5	65	18	58%	2.0	57	31	45%	3.4	52
県南西部	31	23%	4.4	46	12	39%	1.7	54	33	48%	4.7	59
高梁・新見	0	0%	0	33	0	0%	0	37	1	1%	1.6	43
真庭	0	0%	0	33	0	0%	0	37	0	0%	0	34
津山・英田	7	5%	3.8	45	1	3%	0.5	43	4	6%	2.2	46
出典	平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月											

資\_図表 33-18 専門医数(形成外科、リハビリテーション科)

二次医療圏	形成外科 専門医数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	リハビリテ- ーション科 専門医数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	2,141		1.7	(1.3)	2,516		2.0	(1.4)
岡山県	52	2.4%	2.7	58	71	2.8%	3.7	62
県南東部	30	58%	3.3	62	42	59%	4.6	68
県南西部	19	37%	2.7	58	23	32%	3.3	59
高梁・新見	0	0%	0	37	3	4%	4.8	70
真庭	0	0%	0	37	0	0%	0	36
津山・英田	3	6%	1.6	50	3	4%	1.6	48
出典	平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月							

資\_図表 33-19 看護師数(総数、病院看護師数、診療所看護師数)

二次医療圏	総看護師 数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	病院 看護師数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	診療所 看護師数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	1,145,134		901	(287)	919,205		723	(243)	225,929		178	(71)
岡山県	20,850	1.8%	1,085	56	16,704	1.8%	869	56	4,146	1.8%	216	55
県南東部	10,654	51%	1,156	59	8,484	51%	920	58	2,170	52%	235	58
県南西部	7,326	35%	1,036	55	6,015	36%	850	55	1,311	32%	185	51
高梁・新見	573	3%	914	50	466	3%	743	51	107	3%	171	49
真庭	481	2%	1,024	54	397	2%	844	55	85	2%	180	50
津山・英田	1,815	9%	995	53	1,342	8%	736	51	473	11%	259	61
出典	病院看護師数と診療所看護師数の合計				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月			

資\_図表 33-20 総療法士数と薬剤師数

二次医療圏	総療法士 数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	薬剤師 数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	139,385		110	(57)	301,323		237	(98)
岡山県	2,566	1.8%	134	54	4,121	1.4%	214	48
県南東部	1,174	46%	127	53	2,414	59%	262	53
県南西部	1,049	41%	148	57	1,224	30%	173	43
高梁・新見	78	3%	125	53	98	2%	156	42
真庭	56	2%	118	51	67	2%	143	40
津山・英田	210	8%	115	51	318	8%	174	44
出典	平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月			

資\_図表 33-21 在宅医療施設数(在宅療養支援診療所、在宅療養支援病院、訪問看護ステーション)

二次医療圏	在宅療養支援診療所	県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	在宅療養支援病院	県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	訪問看護ステーション	県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	14,224		0.9	(0.4)	1,386		0.1	(0.1)	10,994		0.7	(0.2)
岡山県	308	2.2%	1.1	56	38	2.7%	0.1	58	157	1.4%	0.6	45
県南東部	191	62%	1.6	66	15	39%	0.1	56	77	49%	0.6	48
県南西部	72	23%	0.7	47	18	47%	0.2	64	47	30%	0.5	41
高梁・新見	6	2%	0.4	39	0	0%	0	38	6	4%	0.4	38
真庭	10	3%	1.0	53	2	5%	0.2	66	10	6%	1.0	64
津山・英田	29	9%	0.9	51	3	8%	0.1	51	17	11%	0.5	43
出典	届出受理医療機関名簿 地方厚生局 平成30年12月				届出受理医療機関名簿 地方厚生局 平成30年12月				介護サービス情報公表システム 厚生労働省 平成30年6月			

資\_図表 33-22 総高齢者施設・住宅定員数、介護保険施設定員(病床)数、高齢者住宅定員数

二次医療圏	総高齢者施設・住宅定員数	全国シェア県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	介護保険施設定員(病床)数	全国シェア県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	高齢者住宅定員数	全国シェア県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	1,695,162		104	(17)	1,001,413		61	(12)	693,749		43	(16)
岡山県	30,962	1.8%	113	55	18,078	1.8%	66	54	12,884	1.9%	47	53
県南東部	14,327	46%	119	59	7,867	44%	65	53	6,460	50%	54	57
県南西部	10,579	34%	109	53	6,001	33%	62	50	4,578	36%	47	53
高梁・新見	1,352	4%	92	43	1,096	6%	75	61	256	2%	17	34
真庭	984	3%	97	46	780	4%	77	63	204	2%	20	36
津山・英田	3,720	12%	115	57	2,334	13%	72	59	1,386	11%	43	50
出典	介護保険施設定員(病床)数と高齢者住宅定員数の合計				老人保健施設(老健)定員数、特別養護老人ホーム(特養)定員数、介護療養病床数の合計				有料老人ホーム、軽費ホーム、グループホーム、サ高住の合計			

資\_図表 33-23 老人保健施設(老健)定員数、特別養護老人ホーム(特養)定員数、介護療養病床数

二次医療圏	老人保健施設(老健)定員数	全国シェア県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	特別養護老人ホーム(特養)定員数	全国シェア県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	介護療養病床数	全国シェア県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	366,589		22	(5.9)	575,180		35	(9.9)	59,644		3.7	(4.0)
岡山県	6,571	1.8%	24	53	10,886	1.9%	40	54	621	1.0%	2.3	46
県南東部	2,935	45%	24	53	4,828	44%	40	55	104	17%	0.9	43
県南西部	2,410	37%	25	54	3,229	30%	33	48	362	58%	3.7	50
高梁・新見	320	5%	22	49	744	7%	51	66	32	5%	2.2	46
真庭	220	3%	22	49	549	5%	54	69	11	2%	1.1	44
津山・英田	686	10%	21	48	1,536	14%	48	62	112	18%	3.5	50
出典	平成30年6月 厚生労働省 介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資\_図表 33-24 有料老人ホーム定員数、軽費ホーム定員数、グループホーム定員数

二次医療圏	有料老人ホーム	有料老人ホーム			軽費ホーム	軽費ホーム			グループホーム	グループホーム		
		全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差		全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差		全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	237,141		14.5	(10.8)	23,297		1.4	(2.1)	201,436		12.3	(5.8)
岡山県	3,556	1.5%	13.0	49	946	4.1%	3.4	60	5,061	2.5%	18.4	61
県南東部	1,694	48%	14.1	50	453	48%	3.8	61	2,202	44%	18.3	60
県南西部	1,558	44%	16.1	51	190	20%	2.0	53	1,851	37%	19.1	62
高梁・新見	28	1%	1.9	38	30	3%	2.0	53	198	4%	13.5	52
真庭	0	0%	0	37	60	6%	5.9	71	144	3%	14.2	53
津山・英田	276	8%	8.5	44	213	23%	6.6	74	666	13%	20.6	64
出典	平成30年6月 厚生労働省 介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資\_図表 33-25 サービス付き高齢者専用賃貸住宅（サ高住）定員数

二次医療圏	サ高住 (全施設)	サ高住(全施設)			サ高住 (特定 施設)	サ高住(特定 施設)			サ高住 (非特定 施設)	サ高住(非特定 施設)			
		全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差		全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差		全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	
全国	231,875		14.2	(7.0)	22,090		1.4	(1.8)	209,785		12.9	(6.8)	
岡山県	3,321	1.4%	12.1	47	147	0.7%	0.5	45	3,174	1.5%	11.6	48	
県南東部	2,111	64%	17.5	55	45	31%	0.4	45	2,066	65%	17.2	56	
県南西部	979	29%	10.1	44	102	69%	1.1	48	877	28%	9.0	44	
高梁・新見	0	0%	0	30	0	0%	0	43	0	0%	0	31	
真庭	0	0%	0	30	0	0%	0	43	0	0%	0	31	
津山・英田	231	7%	7.1	40	0	0%	0	43	231	7%	7.1	42	
出典	サ高住(特定施設)とサ高住(非特定施設)の合計			平成30年6月 国土交通省・厚生労働省 サービス付き高齢者向け住宅 情報提供システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの					平成30年6月 国土交通省・厚生労働省 サービス付き高齢者向け住宅 情報提供システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの				

資\_図表 33-26 介護サービス従事看護師数（介護施設、訪問看護）（常勤換算）

二次医療圏	介護サービス従事 看護師数	介護施設			看護師数 (施設)	訪問看護						
		全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差		全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差				
全国	171,768		10.5	(2.3)	120,155		7.4	(2.0)	51,613		3.2	(1.1)
岡山県	2,972	1.7%	10.8	51	2,260	1.9%	8.2	54	712	1.4%	2.6	45
県南東部	1,274	43%	10.6	50	934	41%	7.8	52	340	48%	2.8	47
県南西部	1,043	35%	10.8	51	793	35%	8.2	54	251	35%	2.6	45
高梁・新見	130	4%	8.8	43	103	5%	7.0	48	27	4%	1.8	38
真庭	144	5%	14.2	66	111	5%	11.0	68	33	5%	3.3	51
津山・英田	382	13%	11.8	56	320	14%	9.9	63	62	9%	1.9	38
出典	平成30年6月 厚生労働省 介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											



資\_図表 33-27 介護サービス従事介護職員数(介護施設等、在宅介護)(常勤換算)

二次医療圏	介護サービス従事介護職員数	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	介護職員 数 (介護施設 等)	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	介護職員 数 (在宅)	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	1,507,968		92	(12.4)	1,286,309		79	(11.2)	221,659		13.6	(5.6)
岡山県	28,267	1.9%	103	59	25,787	2.0%	94	64	2,480	1.1%	9.0	42
県南東部	12,977	46%	108	62	11,646	45%	97	66	1,331	54%	11.1	46
県南西部	9,472	34%	98	54	8,676	34%	90	60	796	32%	8.2	40
高梁・新見	1,445	5%	99	55	1,384	5%	94	64	61	2%	4.1	33
真庭	964	3%	95	52	920	4%	91	61	44	2%	4.4	34
津山・英田	3,409	12%	106	61	3,161	12%	98	67	248	10%	7.7	39
出典	平成30年6月 厚生労働省 介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資\_図表 33-28 在宅医療・介護サービス利用者数(月間)

二次医療圏	在宅医療 利用者数	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	訪問看護 利用者数	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	訪問介護 利用者数	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	1,228,040		75	(35)	511,065		31	(13)	1,218,955		75	(26)
岡山県	20,553	1.7%	75	50	7,275	1.4%	27	46	14,541	1.2%	53	42
県南東部	9,817	48%	82	52	3,436	47%	29	48	8,062	55%	67	47
県南西部	7,533	37%	78	51	2,756	38%	28	48	4,252	29%	44	38
高梁・新見	368	2%	25	36	254	3%	17	39	425	3%	29	33
真庭	516	3%	51	43	270	4%	27	46	237	2%	23	31
津山・英田	2,319	11%	72	49	559	8%	17	39	1,565	11%	48	40
出典	平成30年6月 厚生労働省 介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資\_図表 33-29 総人口の推移と医療需要の増減(医療費ベース)

二次医療圏	地域タイプ	総人口(2005→2015→2025)					医療需要推移(医療費ベース) (2005→2015→2025)		
		2005年	2015年	2005→ 15年 増減率	2025年 (推計)	2005→ 25年 増減率	2005→ 15年 増減率	2015→ 25年 増減率	2005→ 25年 増減率
全国		127,767,994	127,094,745	-1%	122,544,102	-4%	13%	5%	18%
岡山県		1,957,264	1,921,525	-2%	1,846,230	-6%	10%	4%	14%
県南東部	地方都市型	916,674	921,940	1%	905,420	-1%	12%	6%	19%
県南西部	地方都市型	714,121	707,450	-1%	683,910	-4%	13%	5%	19%
高梁・新見	過疎地域型	74,872	62,733	-16%	51,450	-31%	-7%	-11%	-17%
真庭	過疎地域型	52,801	46,990	-11%	41,248	-22%	-3%	-6%	-9%
津山・英田	過疎地域型	198,796	182,412	-8%	164,202	-17%	0%	-4%	-5%
出典	<人口(2005年)> 平成17年国勢調査 都道府県・市区町村別統計表(男女別人口,年齢(3区分)・割合,就業者数,昼間人口など) <人口(2015年)> 平成27年国勢調査 人口等基本集計 平成27年10月 <人口(2025年)> 日本の地域別将来推計人口 国立社会保障・人口問題研究所 平成30年3月 ※医療需要は(0~64歳人口)+(65~74歳人口)×3.0+(75歳以上人口)×4.9で算出。								

資\_図表 33-30 病院数の推移

二次医療圏	2004年			2017年			2004→2017増減	
	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率
全国	9,077	7.1	(3.9)	8,412	6.6	(4.6)	-665	-7%
岡山県	185	9.5	56	163	8.5	54	-22	-12%
県南東部	86	9.4	56	77	8.4	54	-9	-10%
県南西部	62	8.7	54	53	7.5	52	-9	-15%
高梁・新見	9	12.0	63	8	12.8	63	-1	-11%
真庭	8	15.2	71	7	14.9	68	-1	-13%
津山・英田	20	10.1	58	18	9.9	57	-2	-10%
出典	<病院数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <病院数2017年>平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月							

資\_図表 33-31 診療所数の推移

二次医療圏	2004年			2017年			2004→2017増減	
	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率
全国	97,051	76	(20)	101,471	80	(19)	4,420	5%
岡山県	1,624	83	53	1,648	86	53	24	1%
県南東部	836	91	58	866	94	57	30	4%
県南西部	496	69	47	509	72	46	13	3%
高梁・新見	70	93	59	65	104	63	-5	-7%
真庭	50	95	59	44	94	57	-6	-12%
津山・英田	172	87	55	164	90	55	-8	-5%
出典	<診療所数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <診療所数2017年>平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月							

資\_図表 33-32 医師数の推移

二次医療圏	2004年			2016年			2004→2016増減	
	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率
全国	270,371	212	(84)	304,759	240	(90)	34,388	13%
岡山県	5,051	258	56	5,752	299	57	701	14%
県南東部	2,685	293	60	3,245	352	63	560	21%
県南西部	1,817	254	55	1,984	280	55	167	9%
高梁・新見	116	155	43	86	137	39	-30	-26%
真庭	96	182	46	78	166	42	-18	-19%
津山・英田	337	170	45	359	197	45	22	7%
出典	<総医師数2004年>平成16年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成16年12月 <総医師数2016年>平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成28年12月							

資\_図表 33-33 総病床数(精神科を含む)の推移

二次医療圏	2004年			2017年			2004→2017増減	
	数	人口 1万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 1万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率
全国	1,812,554	142	(56)	1,653,234	130	(54)	-159,320	-9%
岡山県	34,944	179	57	30,460	159	55	-4,484	-13%
県南東部	17,438	190	59	15,451	168	57	-1,987	-11%
県南西部	11,772	165	54	10,371	147	53	-1,401	-12%
高梁・新見	1,240	166	54	1,051	168	57	-189	-15%
真庭	1,164	220	64	842	179	59	-322	-28%
津山・英田	3,330	168	55	2,745	150	54	-585	-18%
出典	<総病床数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <総病床数2017年>平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月							

資\_図表 33-34 一般病床数(病院+診療所)の推移

二次医療圏	2004年			2017年			2004→2017増減	
	数	人口 1万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 1万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率
全国	1,068,821	84	(28)	980,151	77	(26)	-88,670	-8%
岡山県	22,540	115	61	19,787	103	60	-2,753	-12%
県南東部	11,709	128	66	10,315	112	63	-1,394	-12%
県南西部	7,785	109	59	7,155	101	59	-630	-8%
高梁・新見	549	73	46	451	72	48	-98	-18%
真庭	678	128	66	496	106	61	-182	-27%
津山・英田	1,819	92	53	1,370	75	49	-449	-25%
出典	<一般病床数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <一般病床数2017年>平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月							

資\_図表 33-35 療養病床数(病院+診療所)の推移

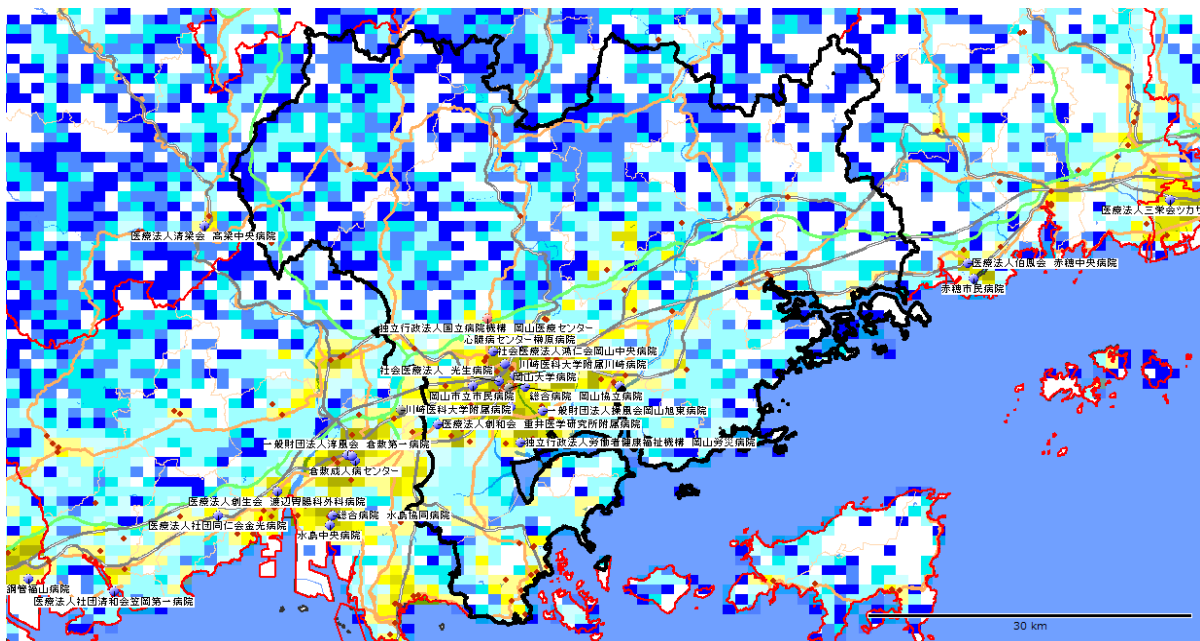
二次医療圏	2004年			2017年			2004→2017増減	
	数	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率
全国	373,823	32	(18)	334,297	20	(11)	-39,526	-11%
岡山県	6,112	29	48	5,066	18	48	-1,046	-17%
県南東部	2,213	24	46	1,920	16	46	-293	-13%
県南西部	2,412	34	51	1,818	19	48	-594	-25%
高梁・新見	390	29	48	360	25	54	-30	-8%
真庭	266	29	48	176	17	47	-90	-34%
津山・英田	831	29	48	792	25	54	-39	-5%
出典	<療養病床数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <療養病床数2017年>平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月							

# 33-1. けんなんとうぶ 県南東部医療圏

構成市区町村 北区 中区 東区 南区  
玉野市 備前市 瀬戸内市 赤磐市  
和気町 吉備中央町

※日本医師会JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報を参照可能  
<http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

## 人口分布(1km<sup>2</sup>区画単位)



1km<sup>2</sup>区画(1km<sup>2</sup>メッシュ)で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く(10,000人/km<sup>2</sup>以上)、黄色系統は中間レベル(1,000~10,000人/km<sup>2</sup>)、青色系統は人口が少ない(1,000人/km<sup>2</sup>未満)。白色は非居住地。  
 出所：国勢調査(平成22年、総務省)地図情報GIS Market Analyzer ver.3.7 地図 PAREAシリーズ



## (県南東部医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

## 【地域の概要】

- \*人口、面積など： 県南東部(岡山市北区)は、総人口約922千人(2015年)、面積1,900km<sup>2</sup>、人口密度は485人/km<sup>2</sup>の地方都市型二次医療圏である。
- \*人口の将来予測： 県南東部の総人口は2025年に905千人へと減少し(2015年比-2%)、2040年に846千人へと減少する(2025年比-7%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の120千人が、2025年にかけて161千人へと増加し(2015年比+34%)、2040年には161千人とほぼ変わらない(2025年比±0%)ことが予想される。
- \*医療費と介護給付費： 県南東部の一人当たり医療費(国保)は401千円(偏差値63)、介護給付費は279千円(偏差値58)であり、医療費、介護給付費ともに高い。

## 【医療の現状】

- \*入院医療の充実度： 県南東部の一人当たり急性期医療密度指数は1.51、一人当たり慢性期医療密度指数は1.14で、急性期の医療はかなり余裕があるが、慢性期の医療は全国平均レベルである。
- \*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が63(病院医師数62、診療所医師数61)と、総医師数、病院医師数、診療所医師数ともに多い。総看護師数の偏差値は59と多い。
- \*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は65で、一般病床は多い。全身麻酔数の偏差値は48と全国平均レベルである。県南東部には、年間全身麻酔件数が2000例以上の岡山済生会総合病院(Ⅲ群)、岡山赤十字病院(Ⅲ群・救命)、川崎医科大学総合医療センター(Ⅲ群)、NHO岡山医療センター(Ⅱ群)、岡山大学病院(I群・救命)、1000例以上の岡山市立市民病院(Ⅲ群)、岡山労災病院(Ⅲ群)、500例以上の心臓病センター榊原病院(Ⅲ群)、岡山中央病院(Ⅲ群)、岡山旭東病院(Ⅲ群)がある。
- \*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は47と療養病床数はやや少ない。
- \*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値53とやや多く、回復期病床数は偏差値50と全国平均レベルである。
- \*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は54で精神病床数はやや多い。
- \*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は57で診療所数は多い。

## 【介護施設や在宅ケアの現状】

- \*介護施設の現状： 県南東部の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、14,327人(75歳以上1,000人当たりの偏差値59)と全国平均レベルを上回る。そのうち、介護保険施設の定員が7,867床(偏差値53)、高齢者住宅等が6,460床(偏差値57)である。介護保険施設は全国平均レベルをやや上回り、高齢者住宅等は全国平均レベルを上回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、11,646人(75歳以上1,000人当たりの偏差値66)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを大きく上回る。  
施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設53、特別養護老人ホーム55、介護療養型医療施設43、有料老人ホーム50、軽費ホーム61、グループホーム60、サ高住55である。
- \*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値66と非常に多く、在宅療養支援病院は偏差値56と多い。また、訪問看護ステーションは偏差値48と全国平均レベルである。介護職員(在宅)の合計は、1,331人(75歳以上1,000人当たりの偏差値46)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルをやや下回る。
- \*介護の2025年の需要予測： 2025年の介護充足度指数は-4%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、現在の高齢者施設・住宅数でほぼ対応可能である。

## (県南東部医療圏) 2. 推移

## 【人口と医療需要】

県南東部医療圏の総人口は、2005年916,674人が、2015年に921,940人と1%増加し、2025年の人口が905,420人と予測され、2005年→2025年の間に1%程度の減少が予測されている。

医療の需要（医療費ベース）は、2005年から2015年に12%増加し、2015年から2025年にかけて6%程度の増加が予測される。

## 【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

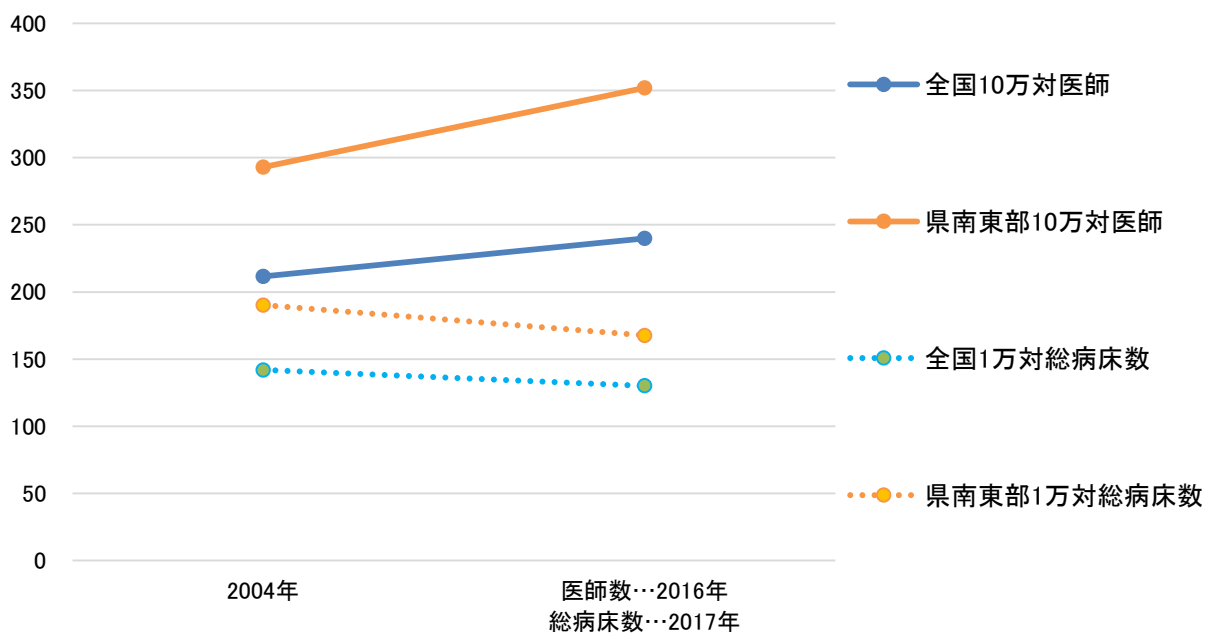
2004年の病院数が86(人口10万人当たり9.4病院(全国平均7.1)偏差値56)であったが、2017年に77(人口10万人当たり8.4病院(全国平均6.6)偏差値54)となり、13年間で9病院が減少した。

2004年の診療所数が836(人口10万人当たり91診療所(全国平均76)偏差値58)であったが、2017年に866(人口10万人当たり94診療所(全国平均80)偏差値57)と、30診療所が増加した。

2004年の総病床数が17,438床(人口1万人当たり190(全国平均142)偏差値59)であったが、2017年に15,451床(人口1万人当たり168(全国平均130)偏差値57)と、1,987床の減少、率にして11%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。

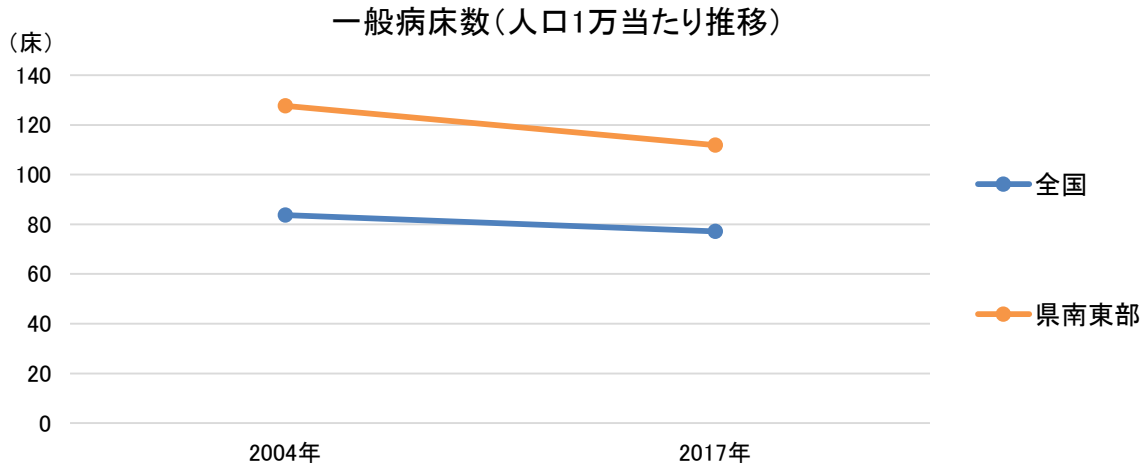
2004年には病院と診療所合わせての総医師数が2,685人(人口10万人当たり293人(全国平均212人)偏差値60)であったが、2016年に3,245人(人口10万人当たり352人(全国平均240人)偏差値63)と、560人の増加、率にして21%の増加(全国平均13%の増加)が見られた。

人口当たり医師数・総病床数の推移



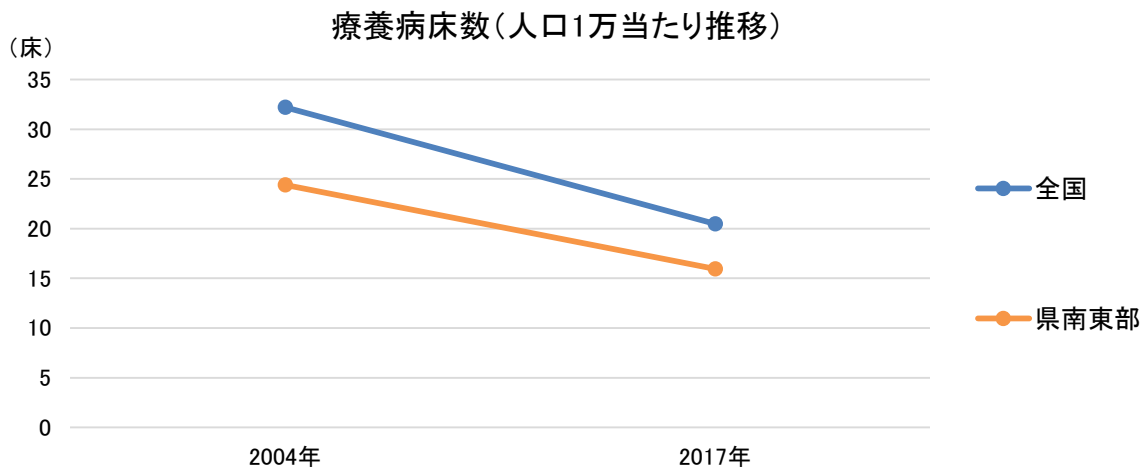
## 【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が11,709床(人口1万人当たり128(全国平均84)偏差値66)であったが、2017年に10,315床(人口1万人当たり112(全国平均77)偏差値63)と、1,394床の減少、率にして12%の減少(全国平均8%の減少)が見られた。



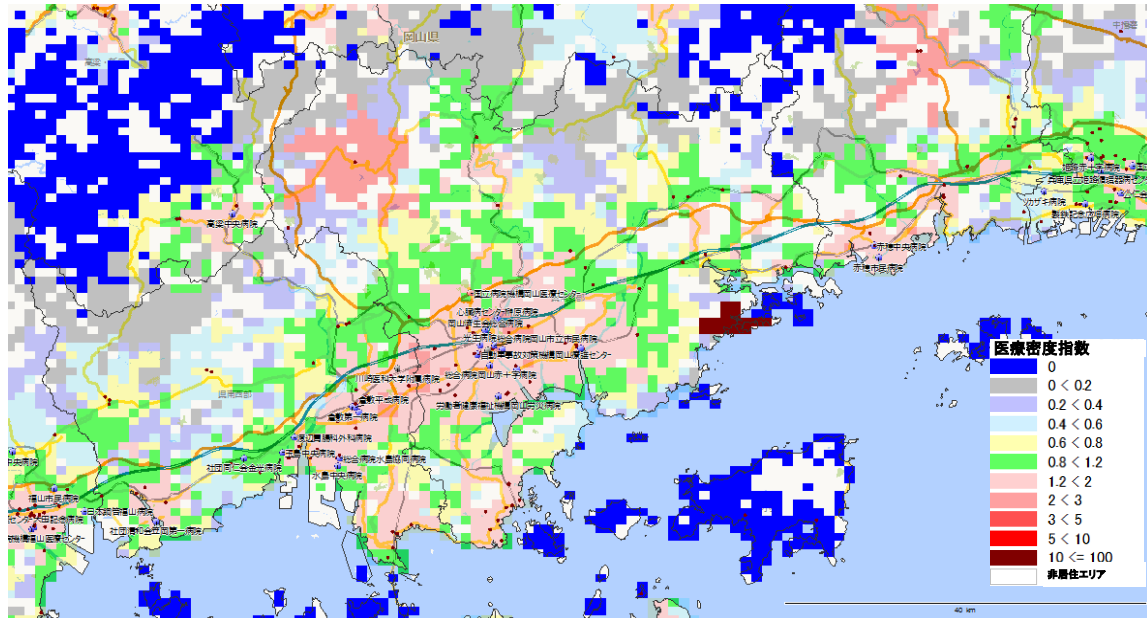
## 【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が2,213床(75歳以上1,000人当たり24(全国平均32)偏差値46)であったが、2017年に1,920床(75歳以上1,000人当たり16(全国平均20)偏差値46)と、293床の減少、率にして13%の減少(全国平均11%の減少)が見られた。



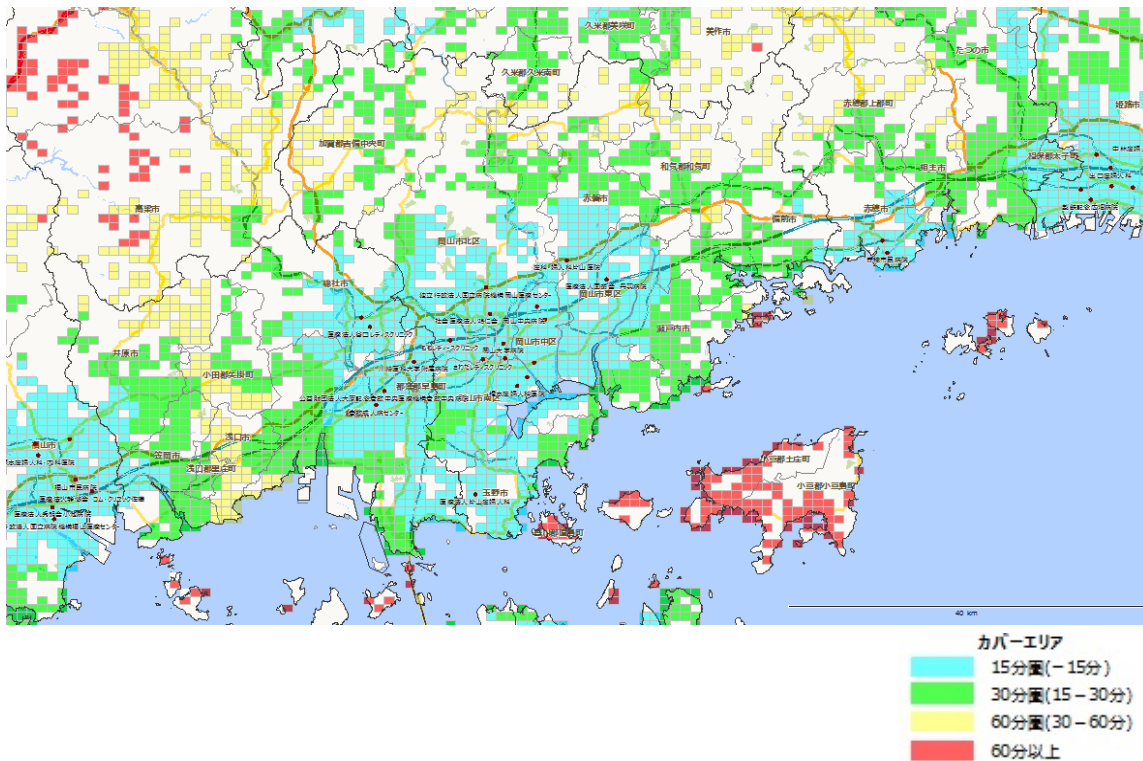
(県南東部医療圏) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表33-1-1 急性期医療密度指数マップ



図表33-1-2 分娩医療機関への所用運転時間(カバーエリア)

※全国1km<sup>2</sup>メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関(病院と有床診療所)への運転時間を計算し、1km<sup>2</sup>メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの(「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照(日医総研WP no. 400) )



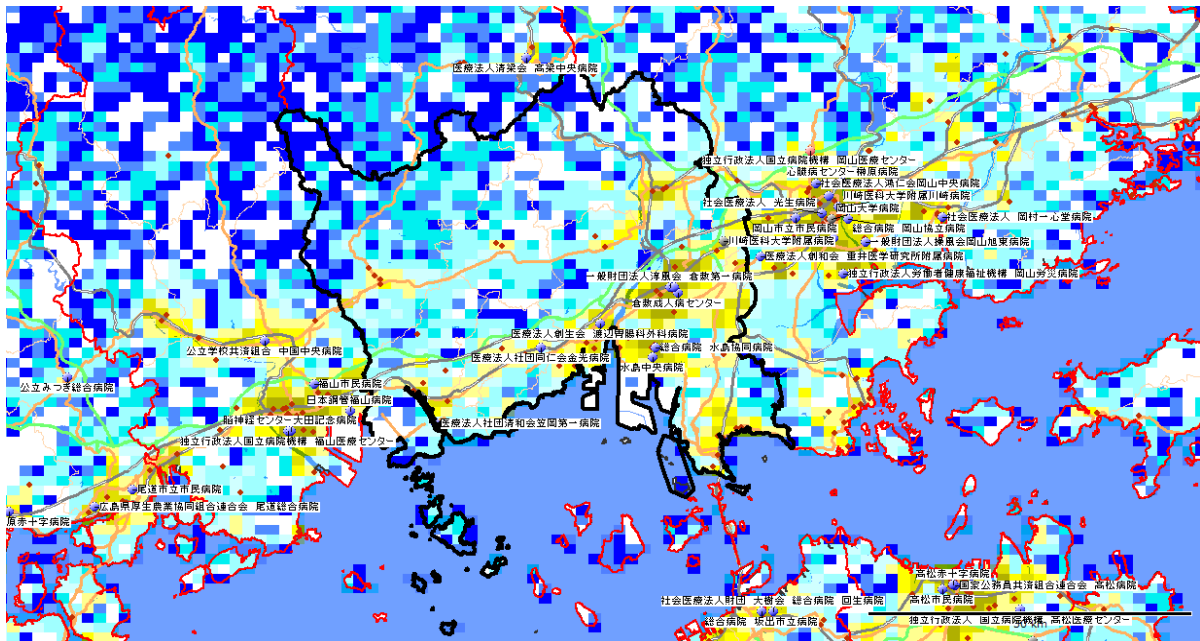


# 33-2. けんなんせいぶ 県南西部医療圏

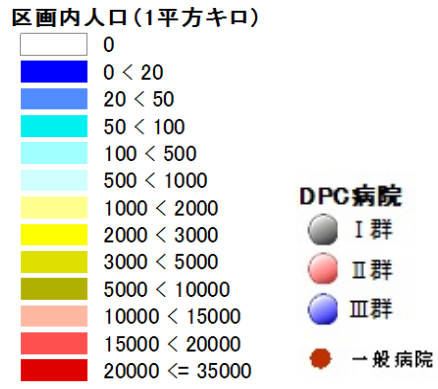
構成市区町村 [倉敷市](#) [笠岡市](#) [井原市](#) [総社市](#)  
[浅口市](#) [早島町](#) [里庄町](#) [矢掛町](#)

※日本医師会JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報を参照可能  
<http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

人口分布 (1km<sup>2</sup>区画単位)



1km<sup>2</sup>区画 (1km<sup>2</sup>メッシュ) で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く (10,000人/km<sup>2</sup>以上)、黄色系統は中間レベル (1,000~10,000人/km<sup>2</sup>)、青色系統は人口が少ない (1,000人/km<sup>2</sup>未満)。白色は非居住地。  
 出所：国勢調査 (平成22年、総務省) 地図情報GIS Market Analyzer ver. 3.7 地図 PAREAシリーズ



## (県南西部医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

## 【地域の概要】

\*人口、面積など： 県南西部(倉敷市)は、総人口約707千人(2015年)、面積1,124km<sup>2</sup>、人口密度は629人/km<sup>2</sup>の地方都市型二次医療圏である。

\*人口の将来予測： 県南西部の総人口は2025年に684千人へと減少し(2015年比-3%)、2040年に627千人へと減少する(2025年比-8%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の97千人が、2025年にかけて132千人へと増加し(2015年比+36%)、2040年には127千人へと減少する(2025年比-4%)ことが予想される。

\*医療費と介護給付費： 県南西部の一人当たり医療費(国保)は395千円(偏差値61)、介護給付費は265千円(偏差値54)であり、医療費は高く、介護給付費はやや高い。

## 【医療の現状】

\*入院医療の充実度： 県南西部の一人当たり急性期医療密度指数は1.17、一人当たり慢性期医療密度指数は2.03で、急性期の医療は全国平均レベルであるが、慢性期の医療はかなり余裕がある。

\*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が55(病院医師数56、診療所医師数48)と、総医師数はほぼ全国平均レベルであるが、病院医師数は多い。総看護師数の偏差値は55とやや多い。

\*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は60で、一般病床は多い。全身麻酔数の偏差値は45とやや少ない。県南西部には、年間全身麻酔件数が2000例以上の倉敷市立市民病院(Ⅲ群)、倉敷成人病センター(Ⅲ群)、倉敷中央病院(Ⅱ群・救命)、川崎医科大学附属病院(Ⅰ群・救命)がある。

\*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は49と療養病床数は全国平均レベルである。

\*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値57と多く、回復期病床数は偏差値55とやや多い。

\*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は47で精神病床数はやや少ない。

\*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は46で診療所数はやや少ない。

## 【介護施設や在宅ケアの現状】

\*介護施設の現状： 県南西部の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、10,579人(75歳以上1,000人当たりの偏差値53)と全国平均レベルをやや上回る。そのうち、介護保険施設の定員が6,001床(偏差値50)、高齢者住宅等が4,578床(偏差値53)である。介護保険施設は全国平均レベルであるが、高齢者住宅等は全国平均レベルをやや上回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、8,676人(75歳以上1,000人当たりの偏差値60)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを上回る。

施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設54、特別養護老人ホーム48、介護療養型医療施設50、有料老人ホーム51、軽費ホーム53、グループホーム62、サ高住44である。

\*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値47とやや少なく、在宅療養支援病院は偏差値64と多い。また、訪問看護ステーションは偏差値41と少ない。介護職員(在宅)の合計は、796人(75歳以上1,000人当たりの偏差値40)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

\*介護の2025年の需要予測： 2025年の介護充足度指数は-9%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、現在の高齢者施設・住宅数ではほぼ対応可能である。

## (県南西部医療圏) 2. 推移

## 【人口と医療需要】

県南西部医療圏の総人口は、2005年714,121人が、2015年に707,450人と1%減少し、2025年の人口が683,910人と予測され、2005年→2025年の間に4%程度の減少が予測されている。

医療の需要（医療費ベース）は、2005年から2015年に13%増加し、2015年から2025年にかけて5%程度の増加が予測される。

## 【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

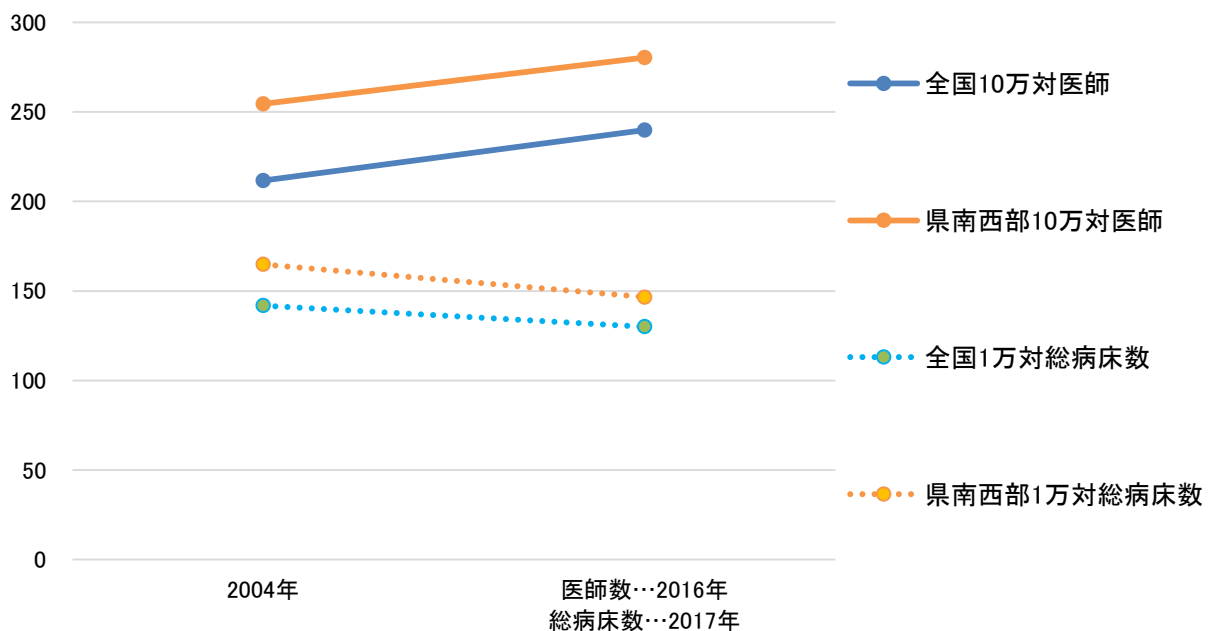
2004年の病院数が62(人口10万人当たり8.7病院(全国平均7.1)偏差値54)であったが、2017年に53(人口10万人当たり7.5病院(全国平均6.6)偏差値52)となり、13年間で9病院が減少した。

2004年の診療所数が496(人口10万人当たり69診療所(全国平均76)偏差値47)であったが、2017年に509(人口10万人当たり72診療所(全国平均80)偏差値46)と、13診療所が増加した。

2004年の総病床数が11,772床(人口1万人当たり165(全国平均142)偏差値54)であったが、2017年に10,371床(人口1万人当たり147(全国平均130)偏差値53)と、1,401床の減少、率にして12%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。

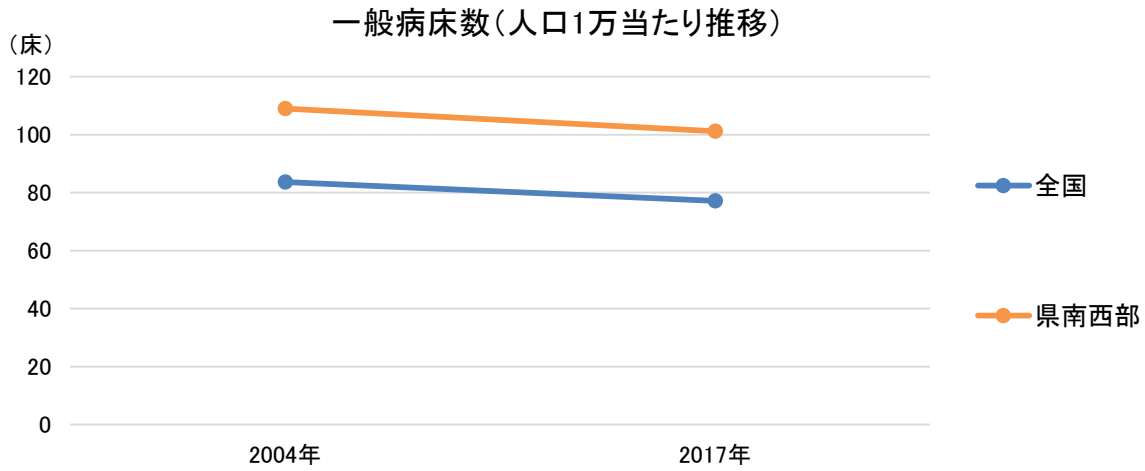
2004年には病院と診療所合わせての総医師数が1,817人(人口10万人当たり254人(全国平均212人)偏差値55)であったが、2016年に1,984人(人口10万人当たり280人(全国平均240人)偏差値55)と、167人の増加、率にして9%の増加(全国平均13%の増加)が見られた。

人口当たり医師数・総病床数の推移



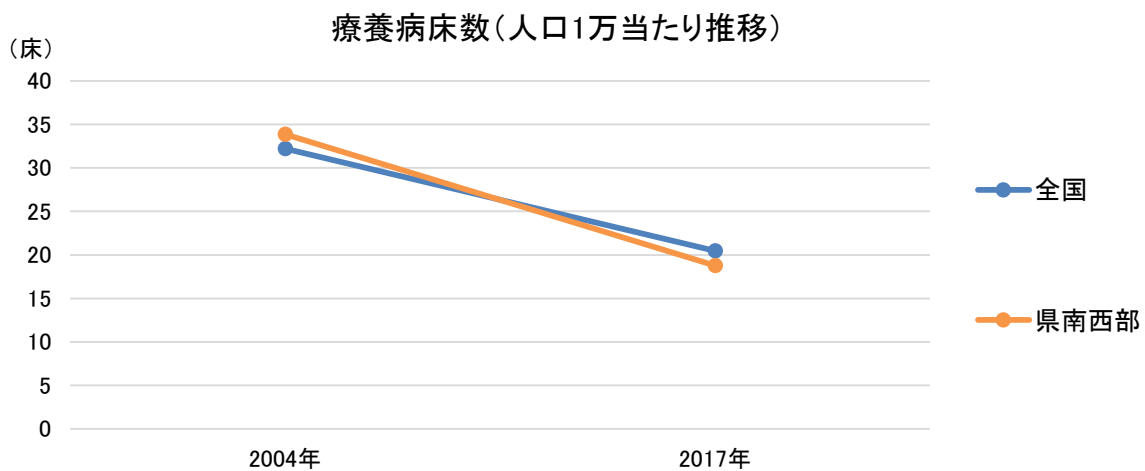
【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が7,785床(人口1万人当たり109(全国平均84)偏差値59)であったが、2017年に7,155床(人口1万人当たり101(全国平均77)偏差値59)と、630床の減少、率にして8%の減少(全国平均8%の減少)が見られた。



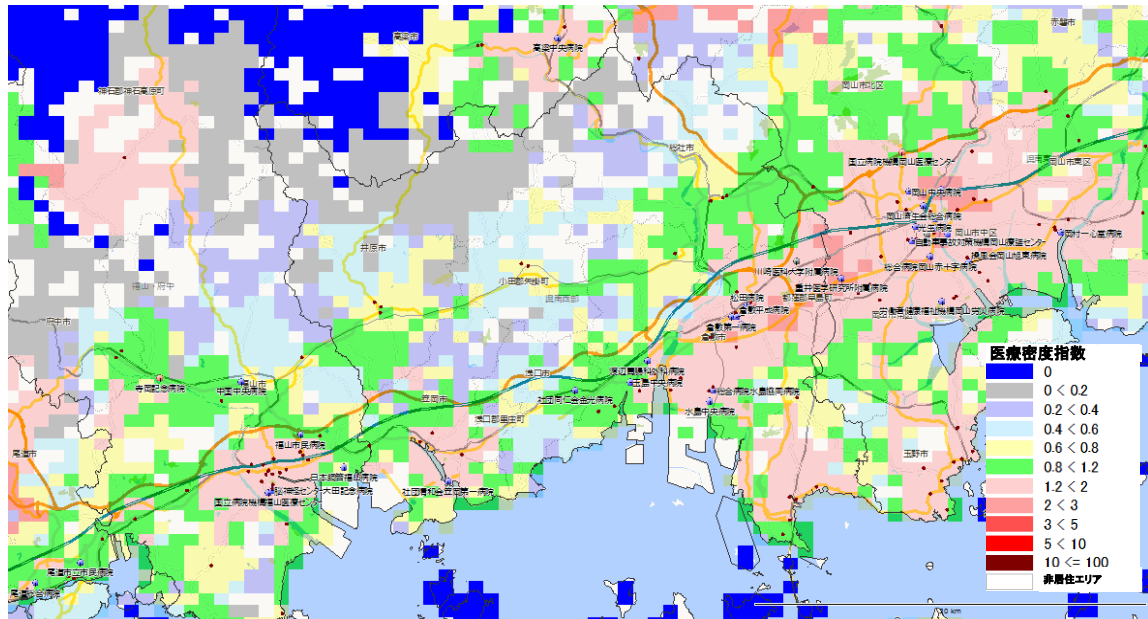
【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が2,412床(75歳以上1,000人当たり34(全国平均32)偏差値51)であったが、2017年に1,818床(75歳以上1,000人当たり19(全国平均20)偏差値48)と、594床の減少、率にして25%の減少(全国平均11%の減少)が見られた。



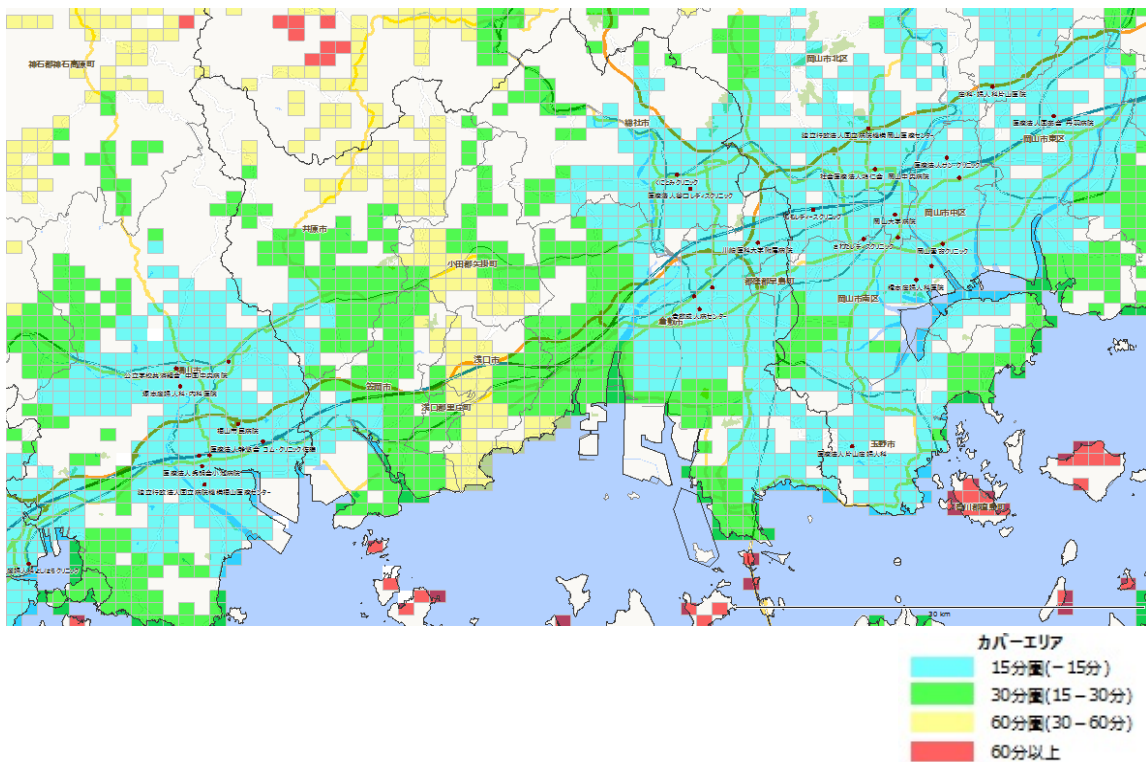
## (県南西部医療圏) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表33-2-1 急性期医療密度指数マップ



図表33-2-2 分娩医療機関への所用運転時間(カバーエリア)

※全国1km<sup>2</sup>メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関(病院と有床診療所)への運転時間を計算し、1km<sup>2</sup>メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの(「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照(日医総研WP no. 400) )

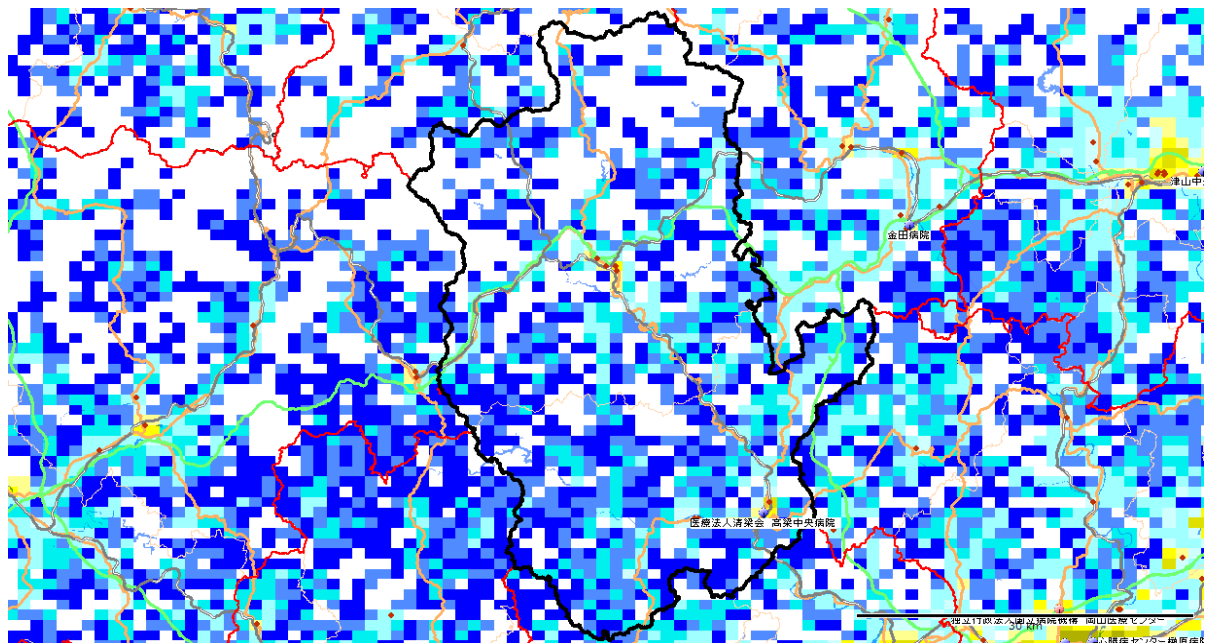


# 33-3. たかはし にいみ 高梁・新見医療圏

構成市区町村 [高梁市](#) [新見市](#)

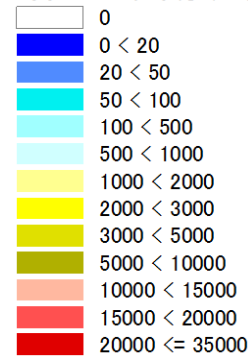
※日本医師会JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報を参照可能  
<http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

人口分布(1km<sup>2</sup>区画単位)



1km<sup>2</sup>区画(1km<sup>2</sup>メッシュ)で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く(10,000人/km<sup>2</sup>以上)、黄色系統は中間レベル(1,000~10,000人/km<sup>2</sup>)、青色系統は人口が少ない(1,000人/km<sup>2</sup>未満)。白色は非居住地。  
 出所：国勢調査(平成22年、総務省)地図情報GIS Market Analyzer ver.3.7 地図 PAREAシリーズ

区画内人口(1平方キロ)



DPC病院



## (高梁・新見医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

### 【地域の概要】

**\*人口、面積など：** 高梁・新見(高梁市)は、総人口約63千人(2015年)、面積1,340km<sup>2</sup>、人口密度は47人/km<sup>2</sup>の過疎地域型二次医療圏である。

**\*人口の将来予測：** 高梁・新見の総人口は2025年に51千人へと減少し(2015年比-19%)、2040年に37千人へと減少する(2025年比-27%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の15千人が、2025年にかけて14千人へと減少し(2015年比-7%)、2040年には12千人へと減少する(2025年比-14%)ことが予想される。

**\*医療費と介護給付費：** 高梁・新見の一人当たり医療費(国保)は462千円(偏差値77)、介護給付費は311千円(偏差値67)であり、医療費、介護給付費ともに非常に高い。

### 【医療の現状】

**\*入院医療の充実度：** 高梁・新見の一人当たり急性期医療密度指数は0.64、一人当たり慢性期医療密度指数は1.62で、急性期の医療は少ないが、慢性期の医療はかなり余裕がある。

**\*医師・看護師の現状：** 総医師数の偏差値が39(病院医師数39、診療所医師数41)と、総医師数、病院医師数、診療所医師数はともに少ない。総看護師数の偏差値は50と全国平均レベルである。

**\*一般病床等の現状：** 人口当たりの一般病床の偏差値は47で、一般病床はやや少ない。全身麻酔数は0件である。高梁・新見には、年間全身麻酔件数が500例以上の病院はない。

**\*療養病床の現状：** 人口当たりの療養病床の偏差値は65と療養病床数は多い。

**\*リハビリの現状：** 総療法士数は偏差値53とやや多く、回復期病床数は0である。

**\*精神病床の現状：** 人口当たりの精神病床の偏差値は56で精神病床数は多い。

**\*診療所の現状：** 人口当たりの診療所数の偏差値は63で診療所数は多い。

### 【介護施設や在宅ケアの現状】

**\*介護施設の現状：** 高梁・新見の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、1,352人(75歳以上1,000人当たりの偏差値43)と全国平均レベルを下回る。そのうち、介護保険施設の定員が1,096床(偏差値61)、高齢者住宅等が256床(偏差値34)である。介護保険施設は全国平均レベルを上回るが、高齢者住宅等は全国平均レベルを大きく下回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、1,384人(75歳以上1,000人当たりの偏差値64)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを上回る。

施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設49、特別養護老人ホーム66、介護療養型医療施設46、有料老人ホーム38、軽費ホーム53、グループホーム52、サ高住なし(偏差値30)である。

**\*在宅ケアの現状：** 在宅療養支援診療所は偏差値39と少なく、在宅療養支援病院は存在しない。また、訪問看護ステーションは偏差値38と少ない。介護職員(在宅)の合計は、61人(75歳以上1,000人当たりの偏差値33)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを大きく下回る。

**\*介護の2025年の需要予測：** 2025年の介護充足度指数は+15%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、現在の高齢者施設・住宅数でやや過剰ぎみである。

## (高梁・新見医療圏) 2. 推移

## 【人口と医療需要】

高梁・新見医療圏の総人口は、2005年74,872人が、2015年に62,733人と16%減少し、2025年の人口が51,450人と予測され、2005年→2025年の間に31%程度の減少が予測されている。

医療の需要（医療費ベース）は、2005年から2015年に7%減少し、2015年から2025年にかけて11%程度の減少が予測される。

## 【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

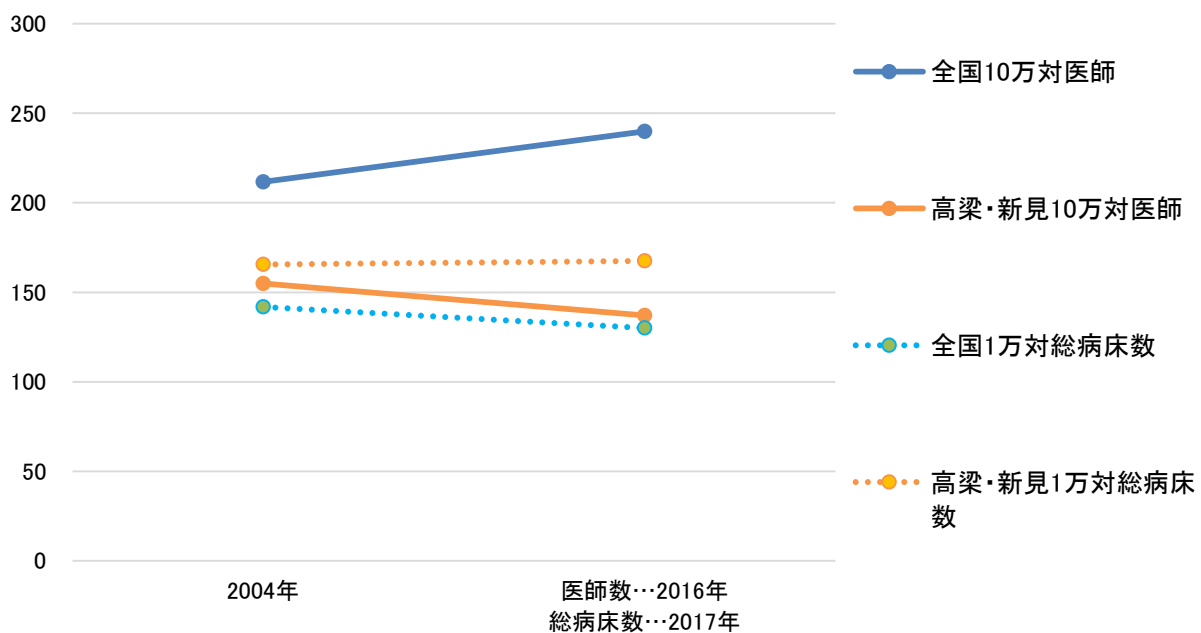
2004年の病院数が9(人口10万人当たり12病院(全国平均7.1)偏差値63)であったが、2017年に8(人口10万人当たり12.8病院(全国平均6.6)偏差値63)となり、13年間で1病院が減少した。

2004年の診療所数が70(人口10万人当たり93診療所(全国平均76)偏差値59)であったが、2017年に65(人口10万人当たり104診療所(全国平均80)偏差値63)と、5診療所が減少した。

2004年の総病床数が1,240床(人口1万人当たり166(全国平均142)偏差値54)であったが、2017年に1,051床(人口1万人当たり168(全国平均130)偏差値57)と、189床の減少、率にして15%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。

2004年には病院と診療所合わせての総医師数が116人(人口10万人当たり155人(全国平均212人)偏差値43)であったが、2016年に86人(人口10万人当たり137人(全国平均240人)偏差値39)と、30人の減少、率にして26%の減少(全国平均13%の増加)が見られた。

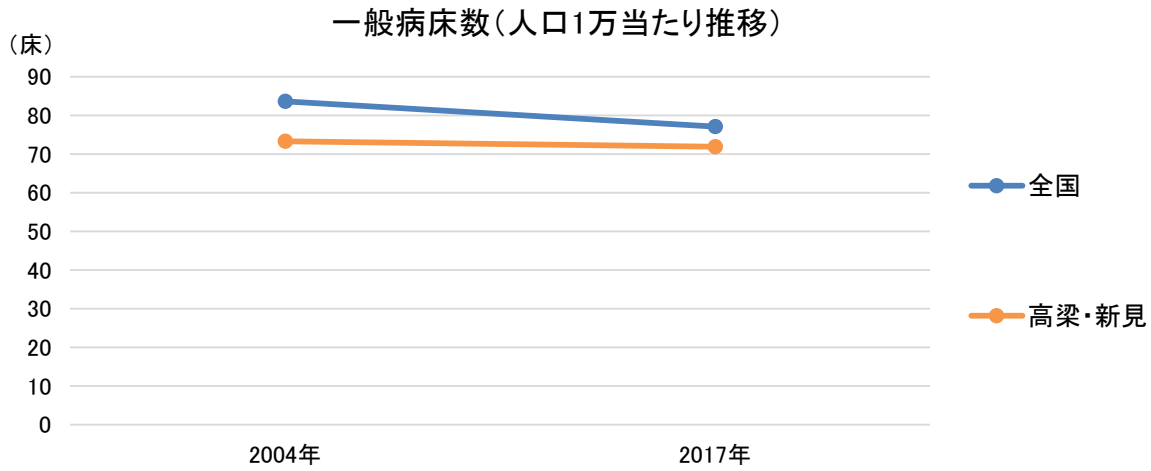
人口当たり医師数・総病床数の推移





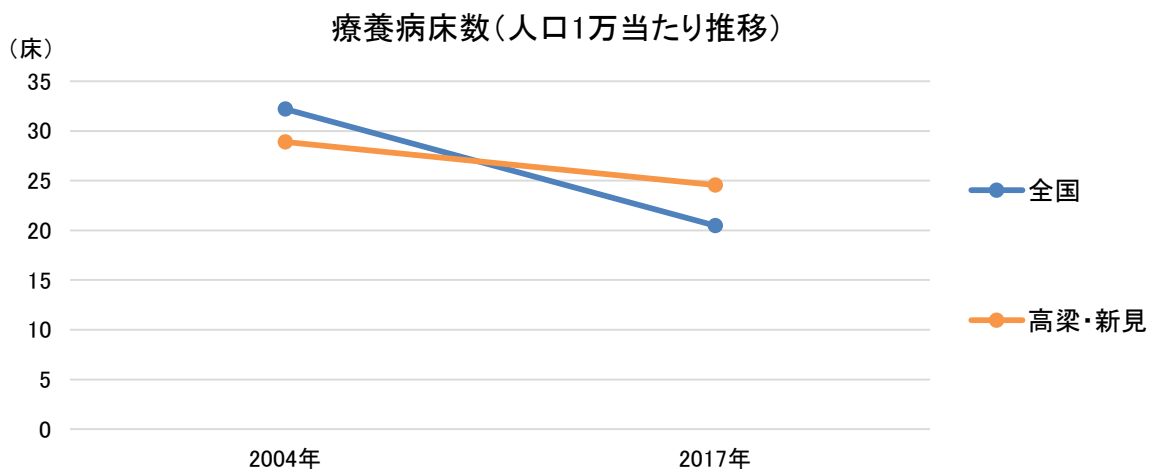
## 【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が549床(人口1万人当たり73(全国平均84)偏差値46)であったが、2017年に451床(人口1万人当たり72(全国平均77)偏差値48)と、98床の減少、率にして18%の減少(全国平均8%の減少)が見られた。



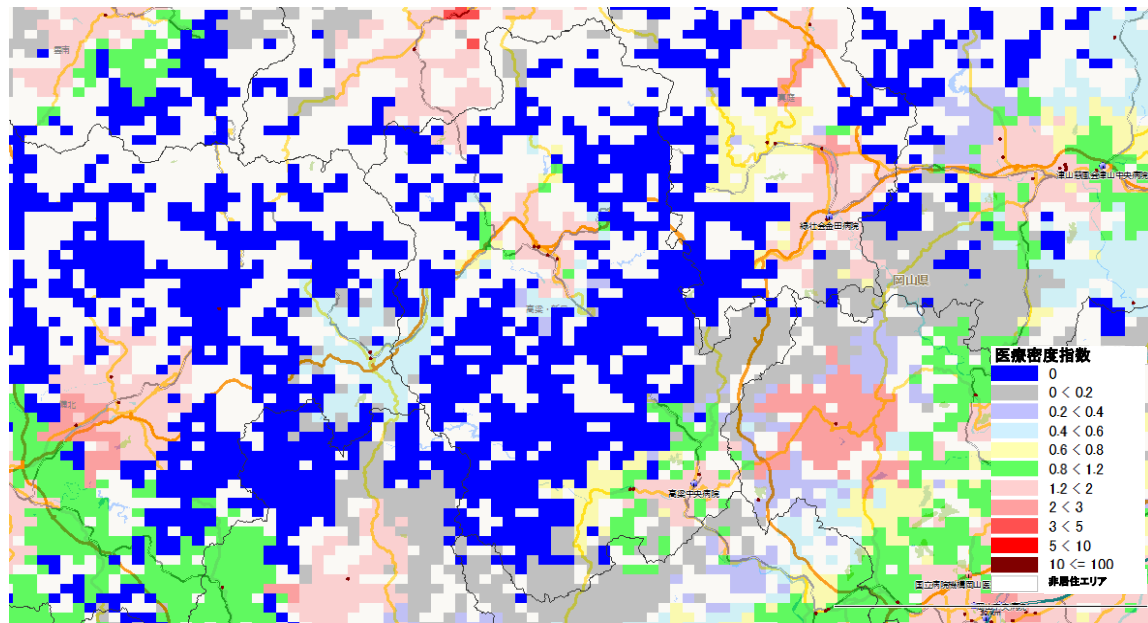
## 【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が390床(75歳以上1,000人当たり29(全国平均32)偏差値48)であったが、2017年に360床(75歳以上1,000人当たり25(全国平均20)偏差値54)と、30床の減少、率にして8%の減少(全国平均11%の減少)が見られた。



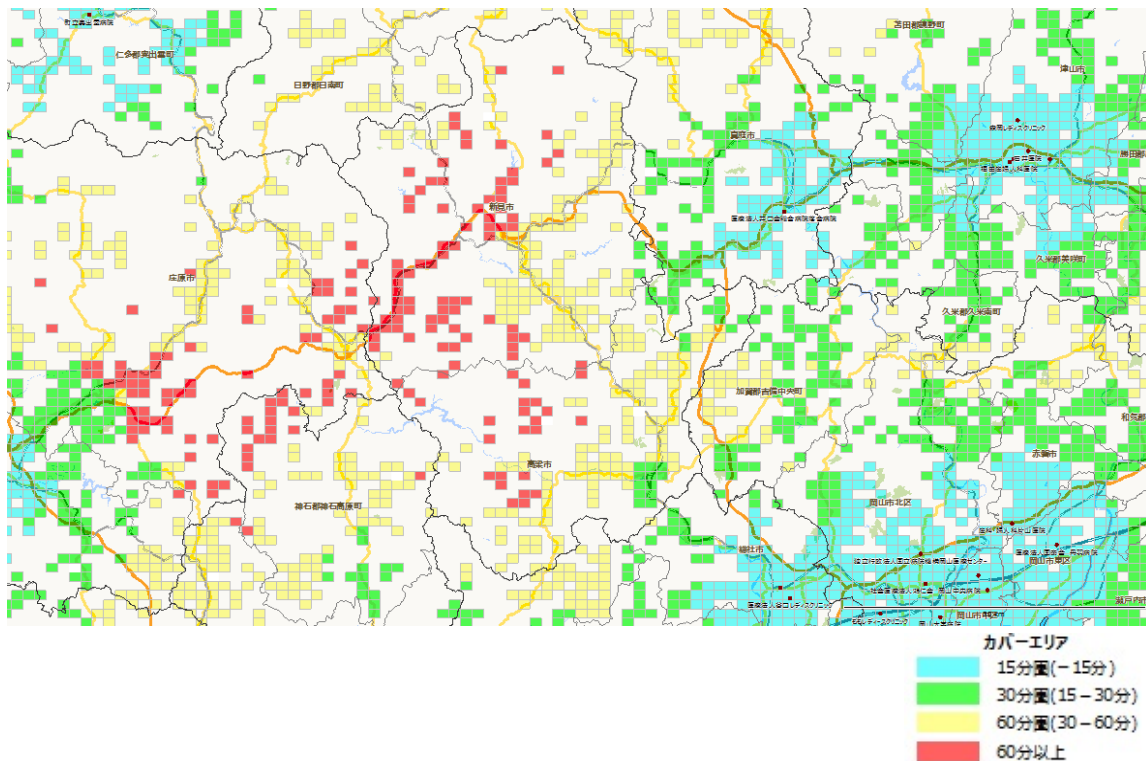
(高梁・新見医療圏) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表33-3-1 急性期医療密度指数マップ



図表33-3-2 分娩医療機関への所用運転時間（カバーエリア）

※全国1km<sup>2</sup>メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関（病院と有床診療所）への運転時間を計算し、1km<sup>2</sup>メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの（「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照（日医総研WP no. 400）」）

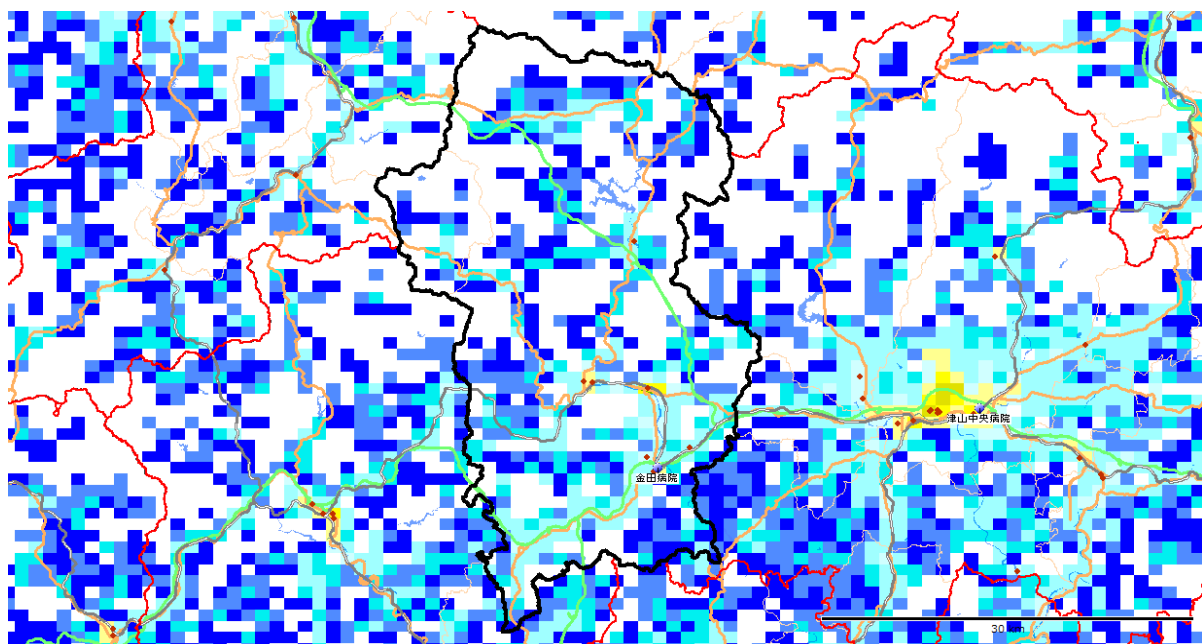


# 33-4. まにわ 真庭医療圏

構成市区町村 [真庭市](#) [新庄村](#)

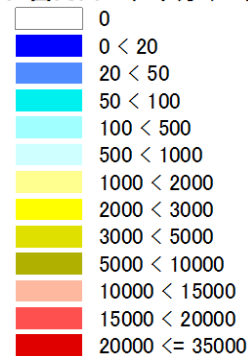
※日本医師会JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報を参照可能  
<http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

人口分布(1km<sup>2</sup>区画単位)



1km<sup>2</sup>区画(1km<sup>2</sup>メッシュ)で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く(10,000人/km<sup>2</sup>以上)、黄色系統は中間レベル(1,000~10,000人/km<sup>2</sup>)、青色系統は人口が少ない(1,000人/km<sup>2</sup>未満)。白色は非居住地。  
 出所: 国勢調査(平成22年、総務省)地図情報GIS Market Analyzer ver. 3.7 地図 PAREAシリーズ

区画内人口(1平方キロ)



DPC病院

● I群

● II群

● III群

● 一般病院

## (真庭医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

## 【地域の概要】

\*人口、面積など： 真庭(真庭市)は、総人口約47千人(2015年)、面積896km<sup>2</sup>、人口密度は52人/km<sup>2</sup>の過疎地域型二次医療圏である。

\*人口の将来予測： 真庭の総人口は2025年に41千人へと減少し(2015年比-13%)、2040年に33千人へと減少する(2025年比-20%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の10千人が、2025年にかけて10千人とほぼ変わらず(2015年比±0%)、2040年には10千人とほぼ変わらない(2025年比±0%)ことが予想される。

\*医療費と介護給付費： 真庭の一人当たり医療費(国保)は397千円(偏差値62)、介護給付費は292千円(偏差値61)であり、医療費、介護給付費ともに高い。

## 【医療の現状】

\*入院医療の充実度： 真庭の一人当たり急性期医療密度指数は0.97、一人当たり慢性期医療密度指数は1.55で、急性期の医療は全国平均レベルであるが、慢性期の医療はかなり余裕がある。

\*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が42(病院医師数41、診療所医師数46)と、総医師数、病院医師数はともに少ない。総看護師数の偏差値は54とやや多い。

\*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は59で、一般病床は多い。全身麻酔数の偏差値は40と少ない。真庭には、年間全身麻酔件数が500例以上の病院はない。

\*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は55と療養病床数はやや多い。

\*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値51と全国平均レベルであり、回復期病床数は0である。

\*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は55で精神病床数はやや多い。

\*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は57で診療所数は多い。

## 【介護施設や在宅ケアの現状】

\*介護施設の現状： 真庭の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、984人(75歳以上1,000人当たりの偏差値46)と全国平均レベルをやや下回る。そのうち、介護保険施設の定員が780床(偏差値63)、高齢者住宅等が204床(偏差値36)である。介護保険施設は全国平均レベルを上回るが、高齢者住宅等は全国平均レベルを下回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、920人(75歳以上1,000人当たりの偏差値61)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを上回る。

施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設49、特別養護老人ホーム69、介護療養型医療施設44、有料老人ホームなし(偏差値37)、軽費ホーム71、グループホーム53、サ高住なし(偏差値30)である。

\*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値53とやや多く、在宅療養支援病院は偏差値66と非常に多い。また、訪問看護ステーションは偏差値64と多い。介護職員(在宅)の合計は、44人(75歳以上1,000人当たりの偏差値34)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを大きく下回る。

\*介護の2025年の需要予測： 2025年の介護充足度指数は+14%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、現在の高齢者施設・住宅数でやや過剰ぎみである。

## (真庭医療圏) 2. 推移

### 【人口と医療需要】

真庭医療圏の総人口は、2005年52,801人が、2015年に46,990人と11%減少し、2025年の人口が41,248人と予測され、2005年→2025年の間に22%程度の減少が予測されている。

医療の需要（医療費ベース）は、2005年から2015年に3%減少し、2015年から2025年にかけて6%程度の減少が予測される。

### 【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

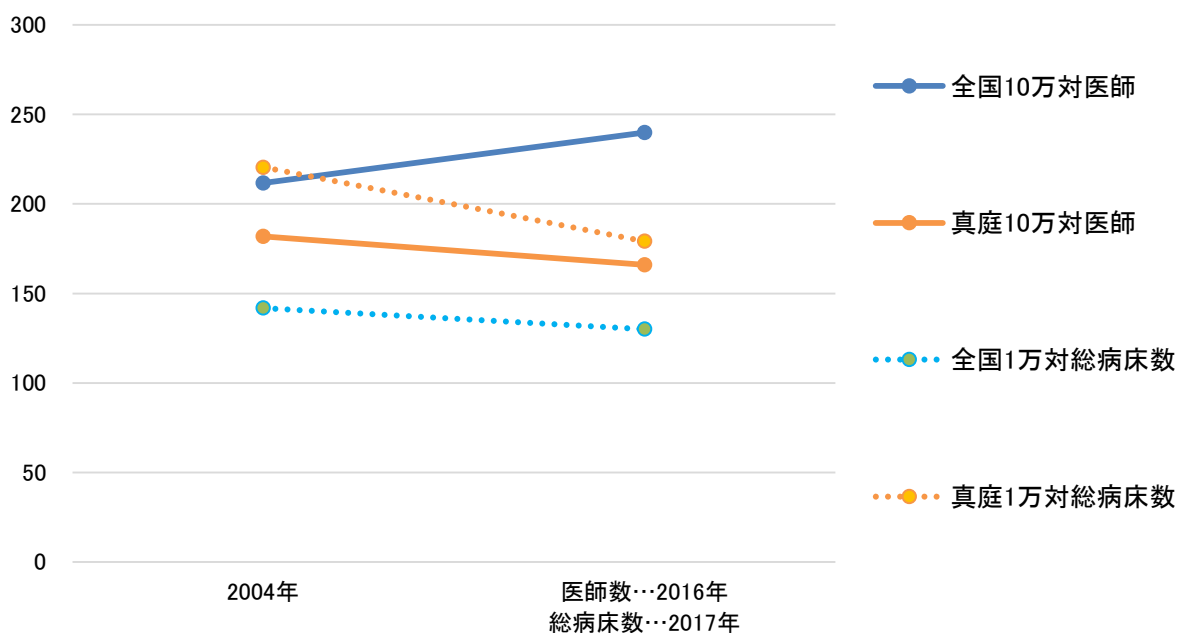
2004年の病院数が8(人口10万人当たり15.2病院(全国平均7.1)偏差値71)であったが、2017年に7(人口10万人当たり14.9病院(全国平均6.6)偏差値68)となり、13年間で1病院が減少した。

2004年の診療所数が50(人口10万人当たり95診療所(全国平均76)偏差値59)であったが、2017年に44(人口10万人当たり94診療所(全国平均80)偏差値57)と、6診療所が減少した。

2004年の総病床数が1,164床(人口1万人当たり220(全国平均142)偏差値64)であったが、2017年に842床(人口1万人当たり179(全国平均130)偏差値59)と、322床の減少、率にして28%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。

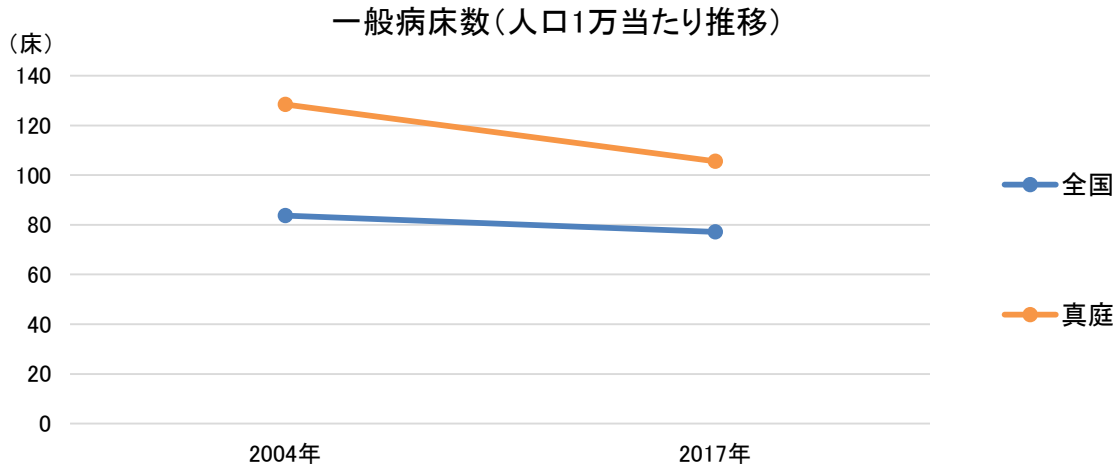
2004年には病院と診療所合わせての総医師数が96人(人口10万人当たり182人(全国平均212人)偏差値46)であったが、2016年に78人(人口10万人当たり166人(全国平均240人)偏差値42)と、18人の減少、率にして19%の減少(全国平均13%の増加)が見られた。

人口当たり医師数・総病床数の推移



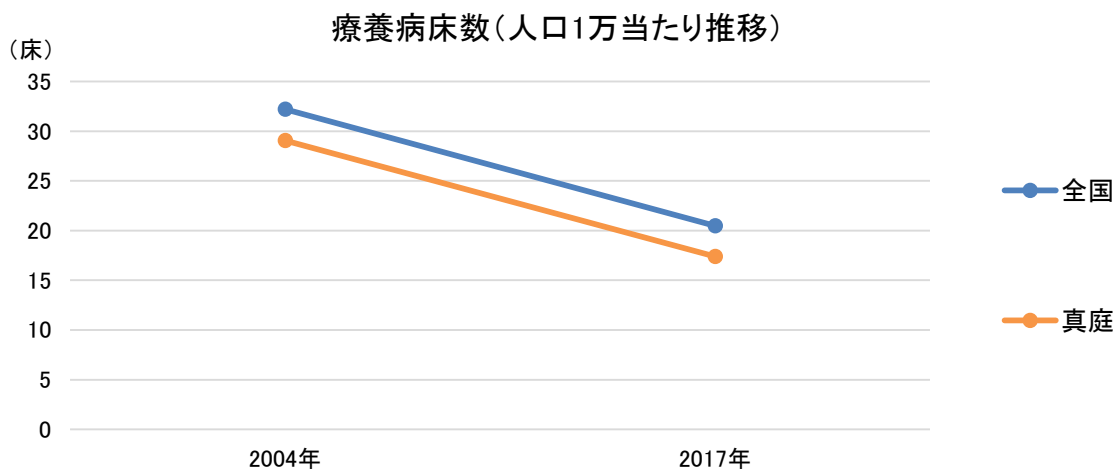
【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が678床(人口1万人当たり128(全国平均84)偏差値66)であったが、2017年に496床(人口1万人当たり106(全国平均77)偏差値61)と、182床の減少、率にして27%の減少(全国平均8%の減少)が見られた。



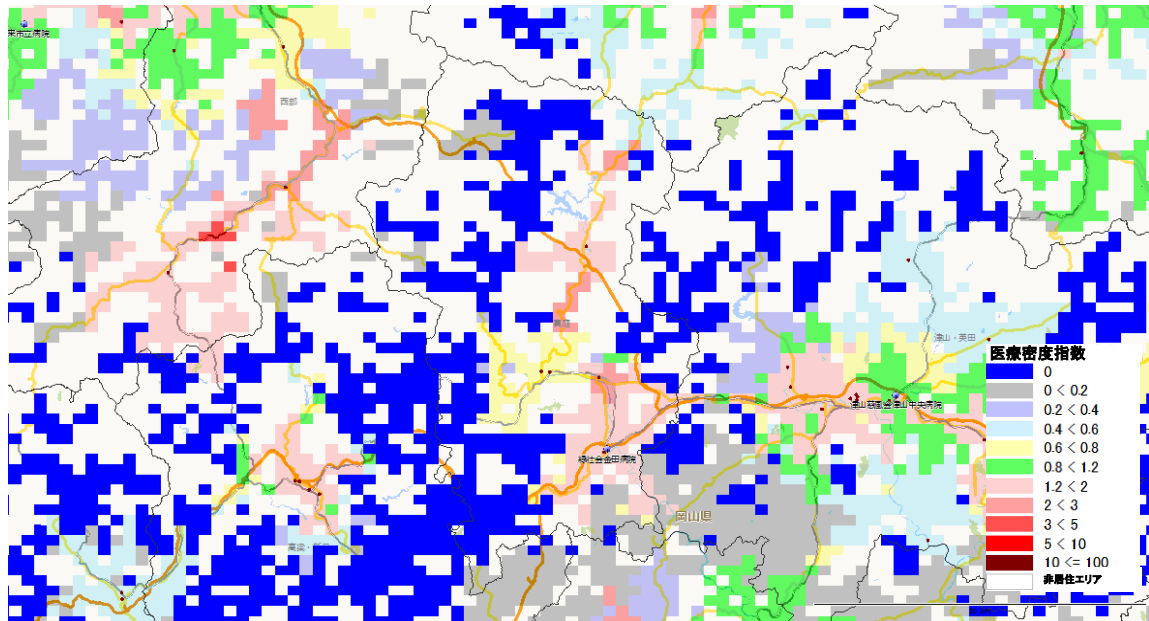
【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が266床(75歳以上1,000人当たり29(全国平均32)偏差値48)であったが、2017年に176床(75歳以上1,000人当たり17(全国平均20)偏差値47)と、90床の減少、率にして34%の減少(全国平均11%の減少)が見られた。



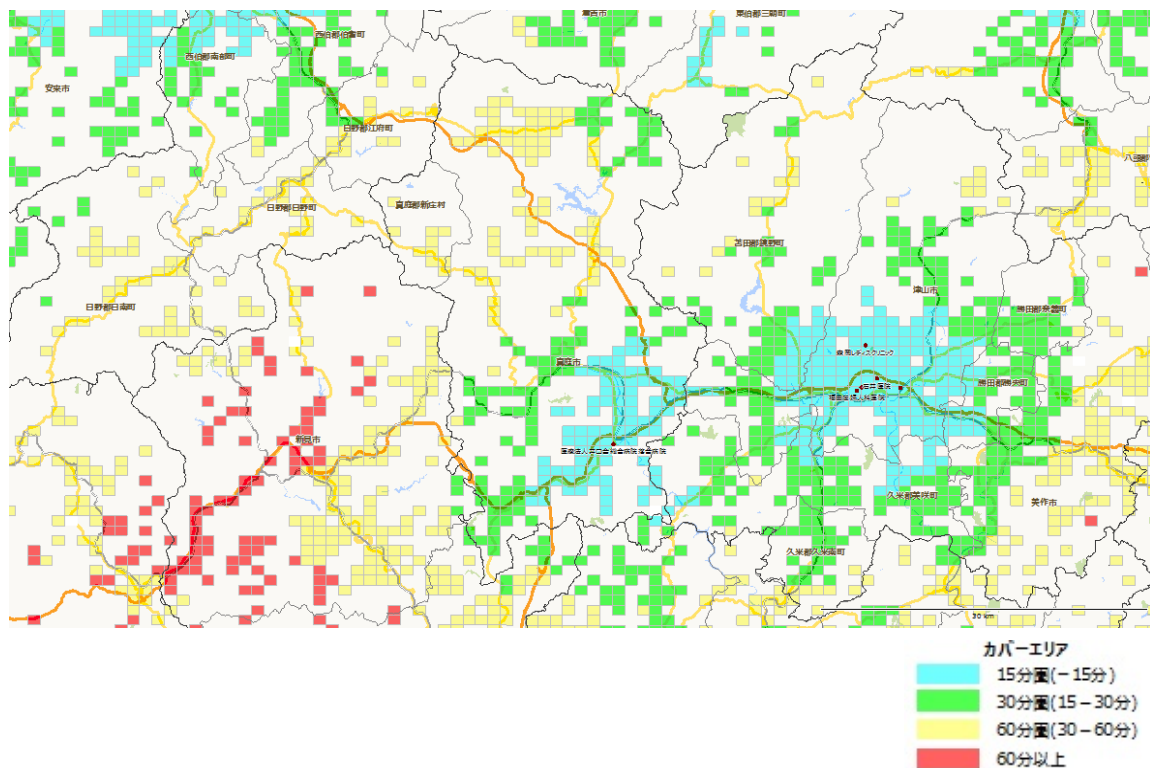
## (真庭医療圏) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表33-4-1 急性期医療密度指数マップ



図表33-4-2 分娩医療機関への所用運転時間(カバーエリア)

※全国1km<sup>2</sup>メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関(病院と有床診療所)への運転時間を計算し、1km<sup>2</sup>メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの(「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照(日医総研WP no. 400) )

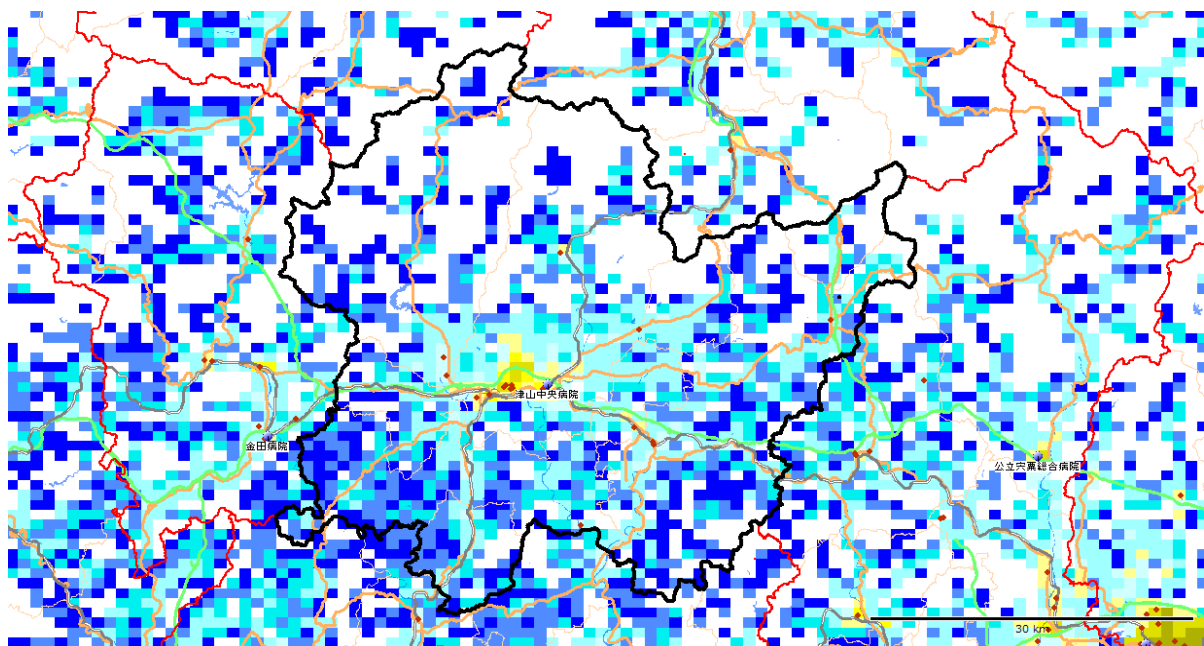


# 33-5. つやま あいだ 津山・英田医療圏

構成市区町村 [津山市](#) [美作市](#) [鏡野町](#) [勝央町](#)  
[奈義町](#) [西粟倉村](#) [久米南町](#) [美咲町](#)

※日本医師会JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報を参照可能  
<http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

人口分布(1km<sup>2</sup>区画単位)



1km<sup>2</sup>区画(1km<sup>2</sup>メッシュ)で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く(10,000人/km<sup>2</sup>以上)、黄色系統は中間レベル(1,000~10,000人/km<sup>2</sup>)、青色系統は人口が少ない(1,000人/km<sup>2</sup>未満)。白色は非居住地。  
 出所：国勢調査(平成22年、総務省)地図情報GIS Market Analyzer ver.3.7 地図 PAREAシリーズ

区画内人口(1平方キロ)



DPC病院





## (津山・英田医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

## 【地域の概要】

- \*人口、面積など： 津山・英田(津山市)は、総人口約182千人(2015年)、面積1,848km<sup>2</sup>、人口密度は99人/km<sup>2</sup>の過疎地域型二次医療圏である。
- \*人口の将来予測： 津山・英田の総人口は2025年に164千人へと減少し(2015年比-10%)、2040年に139千人へと減少する(2025年比-15%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の32千人が、2025年にかけて34千人へと増加し(2015年比+6%)、2040年には32千人へと減少する(2025年比-6%)ことが予想される。
- \*医療費と介護給付費： 津山・英田の一人当たり医療費(国保)は416千円(偏差値66)、介護給付費は309千円(偏差値66)であり、医療費、介護給付費ともに非常に高い。

## 【医療の現状】

- \*入院医療の充実度： 津山・英田の一人当たり急性期医療密度指数は0.89、一人当たり慢性期医療密度指数は1.4で、急性期の医療は全国平均レベルであるが、慢性期の医療は充実している。
- \*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が45(病院医師数43、診療所医師数52)と、総医師数はほぼ全国平均レベルであるが、病院医師数は少ない。総看護師数の偏差値は53とやや多い。
- \*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は46で、一般病床はやや少ない。全身麻酔数の偏差値は43と少ない。津山・英田には、年間全身麻酔件数が2000例以上の津山中央病院(Ⅱ群・救命)がある。
- \*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は57と療養病床数は多い。
- \*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値51と全国平均レベルであり、回復期病床数は偏差値48と全国平均レベルである。
- \*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は52で精神病床数は全国平均レベルである。
- \*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は55で診療所数はやや多い。

## 【介護施設や在宅ケアの現状】

- \*介護施設の現状： 津山・英田の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、3,720人(75歳以上1,000人当たりの偏差値57)と全国平均レベルを上回る。そのうち、介護保険施設の定員が2,334床(偏差値59)、高齢者住宅等が1,386床(偏差値50)である。介護保険施設は全国平均レベルを上回り、高齢者住宅等は全国平均レベルである。また、介護職員(介護施設等)の合計は、3,161人(75歳以上1,000人当たりの偏差値67)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを大きく上回る。  
施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設48、特別養護老人ホーム62、介護療養型医療施設50、有料老人ホーム44、軽費ホーム74、グループホーム64、サ高住40である。
- \*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値51と全国平均レベルであり、在宅療養支援病院は偏差値51と全国平均レベルである。また、訪問看護ステーションは偏差値43と少ない。介護職員(在宅)の合計は、248人(75歳以上1,000人当たりの偏差値39)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。
- \*介護の2025年の需要予測： 2025年の介護充足度指数は+19%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、現在の高齢者施設・住宅数でやや過剰ぎみである。

## (津山・英田医療圏) 2. 推移

## 【人口と医療需要】

津山・英田医療圏の総人口は、2005年198,796人が、2015年に182,412人と8%減少し、2025年の人口が164,202人と予測され、2005年→2025年の間に17%程度の減少が予測されている。

医療の需要（医療費ベース）は、2005年から2015年にほぼ増減なし、2015年から2025年にかけて4%程度の減少が予測される。

## 【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

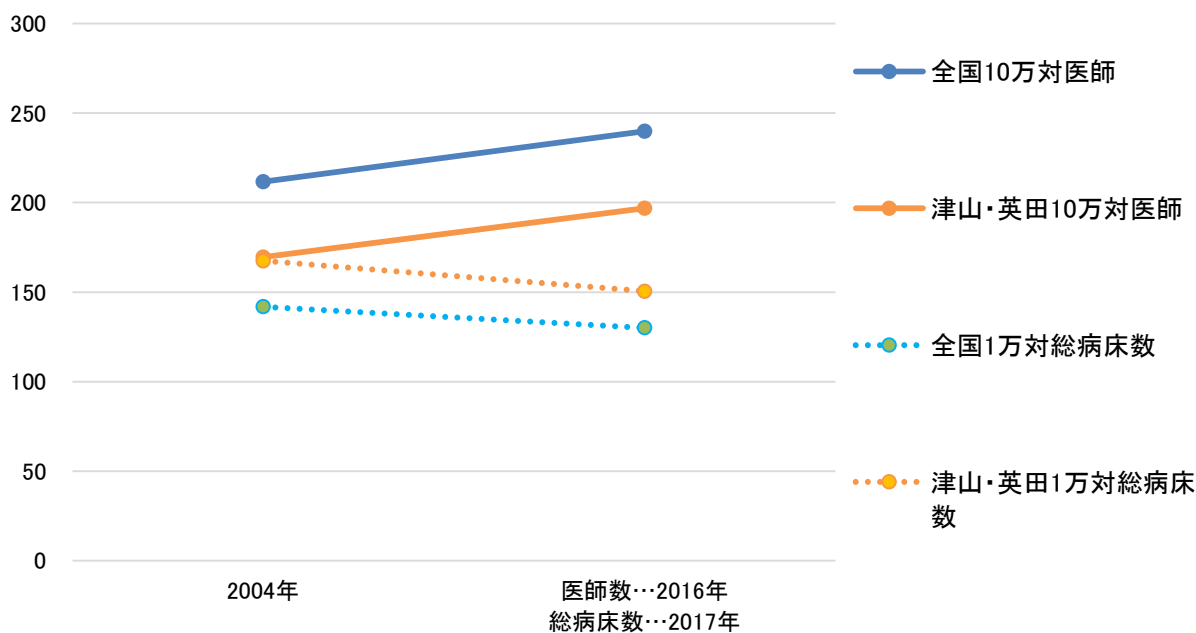
2004年の病院数が20(人口10万人当たり10.1病院(全国平均7.1)偏差値58)であったが、2017年に18(人口10万人当たり9.9病院(全国平均6.6)偏差値57)となり、13年間で2病院が減少した。

2004年の診療所数が172(人口10万人当たり87診療所(全国平均76)偏差値55)であったが、2017年に164(人口10万人当たり90診療所(全国平均80)偏差値55)と、8診療所が減少した。

2004年の総病床数が3,330床(人口1万人当たり168(全国平均142)偏差値55)であったが、2017年に2,745床(人口1万人当たり150(全国平均130)偏差値54)と、585床の減少、率にして18%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。

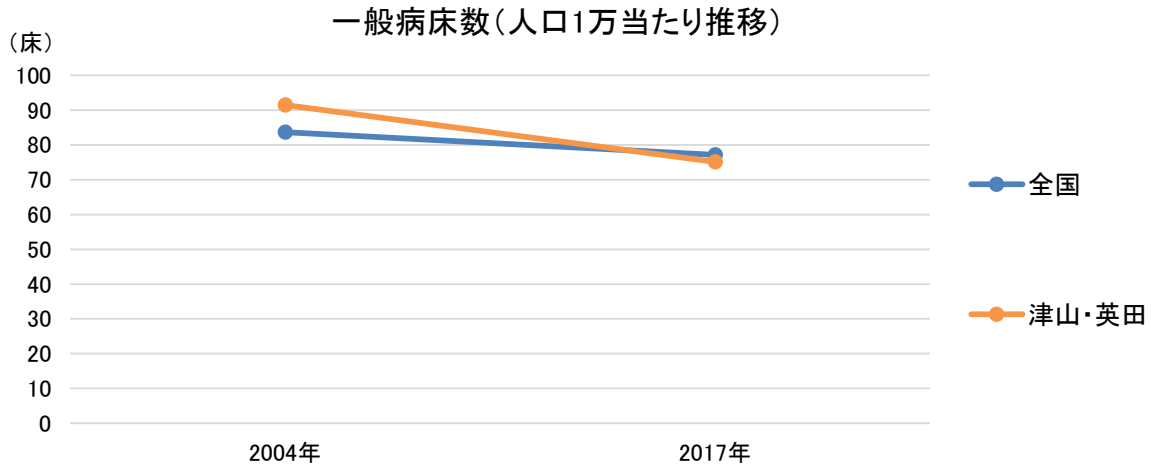
2004年には病院と診療所合わせての総医師数が337人(人口10万人当たり170人(全国平均212人)偏差値45)であったが、2016年に359人(人口10万人当たり197人(全国平均240人)偏差値45)と、22人の増加、率にして7%の増加(全国平均13%の増加)が見られた。

人口当たり医師数・総病床数の推移



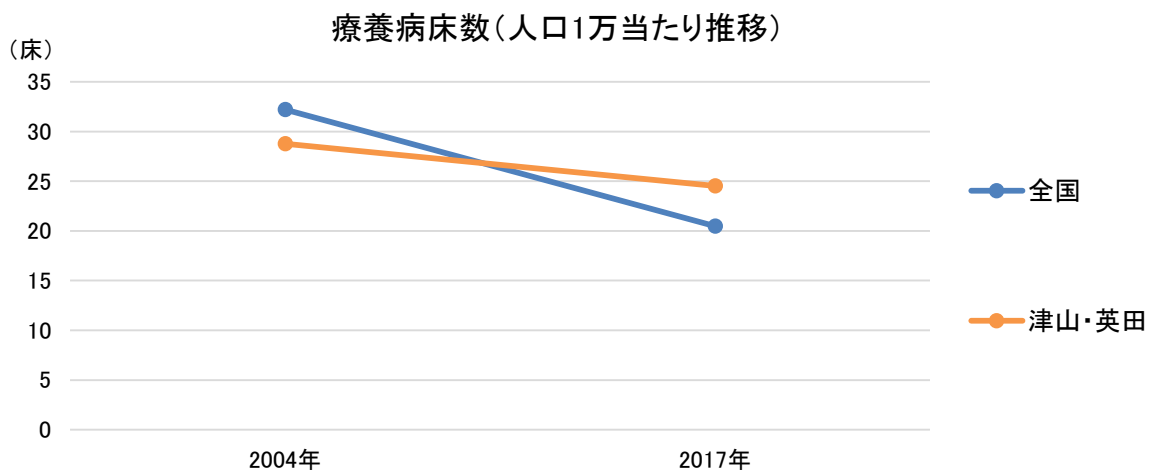
## 【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が1,819床(人口1万人当たり92(全国平均84)偏差値53)であったが、2017年に1,370床(人口1万人当たり75(全国平均77)偏差値49)と、449床の減少、率にして25%の減少(全国平均8%の減少)が見られた。



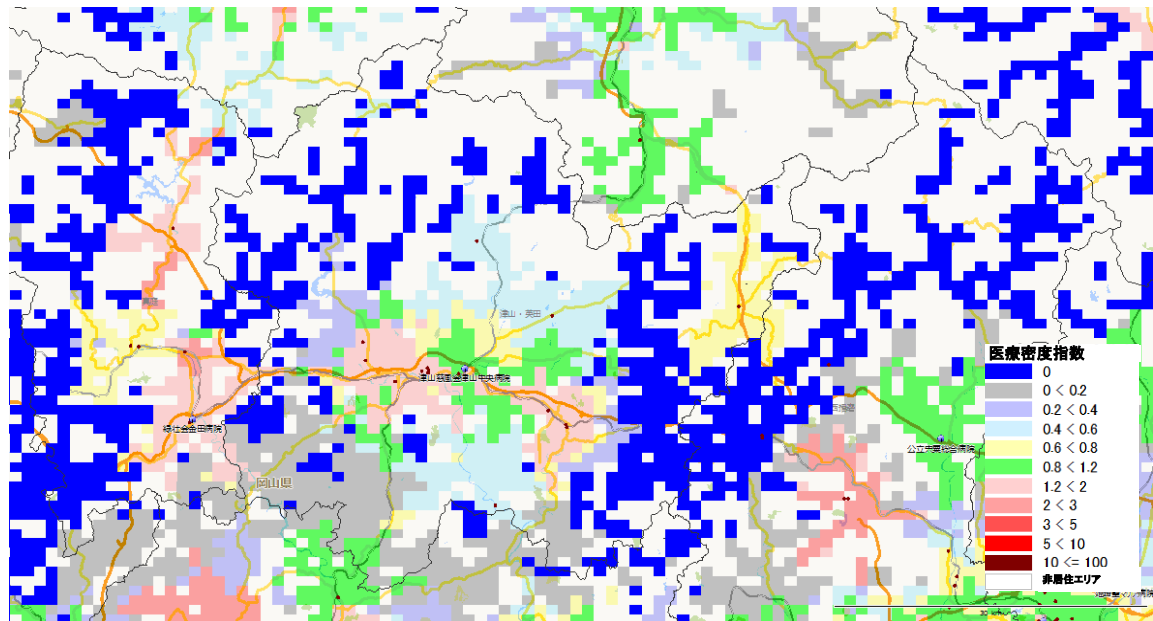
## 【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が831床(75歳以上1,000人当たり29(全国平均32)偏差値48)であったが、2017年に792床(75歳以上1,000人当たり25(全国平均20)偏差値54)と、39床の減少、率にして5%の減少(全国平均11%の減少)が見られた。



(津山・英田医療圏) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表33-5-1 急性期医療密度指数マップ



図表33-5-2 分娩医療機関への所用運転時間（カバーエリア）

※全国1km<sup>2</sup>メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関（病院と有床診療所）への運転時間を計算し、1km<sup>2</sup>メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの（「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照（日医総研WP no. 400）」）

